

2023 年 度

定 時 総 会 資 料

公益社団法人 日本経営工学会

公益社団法人 日本経営工学会

2023 年度定時総会次第

1. 開会の辞
2. 出席者数報告
3. 議長の選任
4. 議事録署名人の指名
5. 会長挨拶
6. 報告事項
 6. 1 2022 年度事業報告, 学会賞・論文賞・特別賞報告
及び収支決算報告
 6. 2 監査報告
 6. 3 2023 年度事業計画, 収支予算報告
 6. 4 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件
7. 審議事項
 - 第一号議案 2022 年度事業報告及び収支決算報告の件
 - 第二号議案 名誉会員推戴の件
 - 第三号議案 新役員選任の件
8. 閉会の辞

6. 報告事項

6. 1 2022 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告

6. 1. 1 2022 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告

[I] 研究発表会, 学術講演会, 報告会等の開催(定款第4条第1号): 大会委員会

(1) 春季大会

日時: 2022 年 5 月 21 日(土)~22(日)
場所: ハイフレックス開催(神奈川大学)
大会組織委員長: 高野 倉 雅人
テーマ: 「ウィズコロナ時代の社会創造に対する経営工学の挑戦」

(2) 秋季大会

日時: 2022 年 11 月 26 日(土)~27(日)
場所: ハイフレックス開催(広島工業大学)
大会組織委員長: 宗澤 良臣

[II] 会誌その他の図書刊行(定款第4条第2号)

(1) 日本経営工学会論文誌(Journal of Japan Industrial management Association):

日本経営工学会論文誌編集委員会

Vol.73, No.1~No.4, No.2E, No.4E を発行した。

発行年月	巻	号	発行部数
2022 年 04 月 15 日	73	1	1,300
2022 年 07 月 15 日	73	2, 2E	1,300
2022 年 10 月 15 日	73	3	1,300
2023 年 01 月 15 日	73	4, 4E	1,300

原著論文(調査研究)1件(うち英文号1件), 原著論文(理論・技術)11件(うち英文号7件), 原著論文(事例研究)7件(うち英文号3件), 研究速報2件を収録した。

経営システム(Communications of JIMA): 経営システム誌編集委員会

Vol.32, No.1・No.2 を発行した。

発行年月	巻	号	発行部数
2022 年 07 月 15 日	32	1	1,800
2023 年 01 月 15 日	32	2	1,800

[III] 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款4条第3号)

2022 年度 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告: 表彰委員会

(1) 学会賞

大場 允晶(JIMA 名誉会員, 日本大学教授: 2022 年 3 月まで, 神奈川大学客員教授: 2022 年 4 月より)

推薦理由:

大場允晶氏は, 長年, 経営工学の中心的な分野である生産マネジメント領域の研究に尽力されると共に, 経営工学の教育に携わってきた。また, JIMA 名誉会員である大場氏は, これまでに学会の副会長や理事を歴任されるなど, 学会の運営や維持・発展に貢献してきた。くわえて,

西関東支部の諸活動においても中心的に活動をされ, 学会のコミュニティ維持にも多大な貢献があったと認められる。

同氏は, 小西六写真工業株式会社(現・コニカミノルタ)における長年の実務経験を活かしつつ, 1996 年に東京都立科学技術大学で博士(工学)の学位を取得し, 経営工学の実務的な知見とアカデミックな研究の両面で研究活動を実践してきた点が特筆される。同氏は 2000 年に日本大学経済学部に着任後, 日本経営工学会の様々な活動に従事し, さらに第 30 期(2009 年~2011 年)には副会長を務め, 経営工学の発展に尽力してきた。特に, 公益法人化への移行期には庶務担当理事としてご尽力頂いた。

また, 研究業績においても, 日本経営工学会論文誌に直近 20 年で 12 編の学術論文を掲載している。研究課題のひとつである“生産座席システム”をベースとした多品種少量生産システムに関する研究成果は, 個々のオーダに対する納期間い合わせが即時に回答される生産販売統合の生産方式として大変価値が高く, 最近の生産システム領域の研究でも度々引用されている成果となっている。

以上のように, 日本経営工学会の維持・発展に対して顕著な功労があり, かつ研究活動でも功績が認められることから, 大場允晶氏を学会賞をもって顕彰する。

学術論文: <日本経営工学会論文誌より抜粋>:

1. 固定ロットサイズ見込生産環境における生産座席予約システムに関する研究 (Vol.72, No.2, 2021),
2. 収益性を考慮した在庫価値評価モデル (Vol.68, No.4, 2018)
3. 保守プロジェクトの基礎情報を用いた問い合わせ予測モデルの提案 (Vol.68, No.3, 2017)
4. A Study on the Seat Setting of the Production Seat Booking System—For Make-To-Stock Manufacturing Process— (Vol.68, 2E, 2017)
5. 保守工程における問い合わせを用いたバグ予測モデルの提案 (Vol.67, No.2, 2016)
6. プロセスモデリングを活用したコスト管理モデル—市場環境変化によるアクティビティコストの変動把握方法— (Vol.65, No.4, 2015)
7. 情報システムにおける問い合わせの予測モデルの提案 (Vol.66, No.3, 2015)
8. 情報システムの保守工程における問い合わせの発生傾向の研究 (Vol.64, No.1, 2013)
9. 情報システムの増築の判断時期とその費用に関する研究 (Vol.63, No.4, 2013)
10. Store Choice Orientations and Intertype Shopping Behavior toward Grocery Stores (Vol.58, No.6, 2008)
11. A Study on the Design of Readjusting Method in the Production Seat System (Vol.56, No.6, 2006)
12. 柔軟性を組み込んだ生産座席システムに関する研究: 写真用カラーフィルム製造を事例にして (Vol.54, No.3, 2003)
13. 製品在庫量と中間在庫量の関係: ハイブリッド・フローショップの生産日程システムの研究 (Vol.47, No.6, 1997)
14. 生産能力と計画達成率との関係: ハイブリッド・フローショップの生産日程計画システムの研究 (Vol.46,

No.6, 1996)

15. 基本サイクリック・スケジューリング方式と変則サイクリック・スケジューリング方式との比較：ハイブリッド・フローショップの生産日程計画システムの研究 (Vol.46, No.4, 1995)
16. 製造連と投入順序付けが製造のパフォーマンスに与える影響：ハイブリッド・フローショップの生産日程システムの研究 (Vol.46, No.3, 1995)

研究論文：＜日本経営工学会誌より抜粋＞：

1. フィルム製造工程の生産日程計画意思決定支援システム (Vol.43, No.3, 1992)

歴任：

2022～ 名誉会員
2013～2016 西関東支部支部長
2009～2010 第30期・副会長
2007～2008 第29期・理事（庶務）

受賞：

2021年 70周年記念特別功労賞
2007年 日本経営工学会経営システム賞

(2) 論文賞

滝 聖子, ヒョウイン (Yun Feng), 梶原 康博
Evaluation Method of Shielded Metal Arc Welding Skills Using Surface Shape Analysis,
日本経営工学会論文誌, Vol.72, No.4E, pp. 272-280 (2022)
推薦理由：

本論文は、技能を必要とする手溶接によるアーク溶接作業において、熟練度の異なる被験者が溶接した溶接部の表面形状を比較するため、レーザースキャナを用いた測定方法と評価方法を提案している。評価方法では、表面形状として重要なパラメータを決定し、それらのパラメータと熟練度の関係について判別分析を使って評価している。著者の先行研究では、アーク溶接作業の動作分析が3次元で行われており、作業時間や動作について熟練度の異なる被験者で比較がされている。本論文の溶接部の表面形状の測定・評価により先行研究のようなアーク溶接作業の動作の結果として生成された溶接部の表面形状を測定することで、作業過程（動作）と作業結果（溶接部）の関係を明らかにすることが今後期待される。

以上より、本論文は経営工学の産業界での活用に寄与するものであり、提案手法のより一層の学術的論証とともに、さらなる発展が期待されるものとして、論文賞の最終候補論文として選出した。

(3) 論文奨励賞

該当なし

(4) 特別賞 経営工学実践賞

吉鷹 里奈・岡崎 友彦 (株式会社キューブシステム)
「株式会社キューブシステムにおける DX 技術を応用した社員間エンゲージメントの向上施策」
経営システム, Vol.32, No.1, pp. 68-74 (2022)

推薦理由：

株式会社キューブシステムでは、コロナ過では在宅勤務などが増え、コミュニケーション不足を感じている社員が多いことを問題視し、その解決策として「スマイルシェアプロダクト」と呼ばれるサービスを提供している。このサービスは、Teams のリアクションを関係図やグラフ化し、社員同士のつながりを可視化する「サンクスコネクト」、コミュニケーションを活発に行うことで配付される社内仮想通貨「キューブコイン」、非接触型決済システムである「スマイルレジ」で構成される。本稿では、同社が提供するサービス「スマイルシェアプロダクト」の解説と併せて、同サービスの先行運用検証の方法や導入後の結果を示し、その後の対策や展望までを赤裸々に論述している。同社のサービスは、昨今の社会情勢における職場での問題に対して、デジタル技術を活用した問題解決のための有効なアプローチとして考えられる。「問題解決」のためのアプローチは経営工学分野の最たる例であり、経営工学分野に携わる実務家にとって大変参考になる事例の報告である。よって、本稿は経営工学実践賞を受賞するにふさわしいものとして、ここに推薦する。

(6) 特別賞 Best Presentation Award

2022 年春季大会

受賞者	所属	演題
松田 樹梨佳	東京理科大学	異なる歩行速度のピッカーによる混雑の緩和を目的としたマルチエージェントモデルの構築
萩本 茜	東京理科大学	道路情報と利用者の移動行動を考慮した一般介護予防施設の立地の検討ー千葉県野田市の「シルバーリハビリ体操」の事例にてー
小林 幸祐	神奈川大学	搬送作業を伴うジョブショップスケジューリング問題に対するクレーン干渉を考慮した厳密解法
小村 皓大	岩手県立大学	センサデータと骨格データのマルチモーダル学習による作業者の動作推定

2022 年秋季大会

受賞者	所属	演題
本高 克樹	早稲田大学	ライブ・コンサートにおけるチケット不正転売防止を考慮した最適なチケット販売方法の提案
小峯 丈尚	成蹊大学	時間値を活用した組立作業のライン設計方法の提案
森本 貫太	早稲田大学	多言語レビューによる宿泊施設の海外旅行者向けのサービス品質向上に関する研究
服部 真也斗	早稲田大学	有形財におけるコレクターの収集意思決定モデルの構築
猪股 一步希	岩手県立大学	広範囲に移動する作業者を対象とした BLE 測位の開発

北林 幸樹	神奈川大学	料理の類似性に基づく人気度推定を考慮した機械学習による仕出し弁当の需要予測
間々田 倖多朗	上智大学	マーケティングデータを用いたCausal Forest による複数時点介入の条件付き平均処置効果の推定および最適介入パターンの予測

古手川 美結	電気通信大学	情報理工学域 I 類 経営・社会情報学プログラム
大橋 一輝	岩手県立大学	ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科
戸井 証希	慶應義塾大学	理工学部 管理工学科
梅本 知聖	長崎総合科学大学	総合情報学部 総合情報学科 マネジメント工学コース

以上 25 名

(7) 特別賞 優秀学生賞

氏名	大学名	学部学科名
福山 歩武	近畿大学	工学部 情報学科
天井 義人	金沢工業大学	情報フロンティア学部 経営情報学科
陣田 舜矢	広島大学	工学部 第二類
山本 留光	青山学院大学	理工学部 経営システム工学科
上林 賢治	早稲田大学	創造理工学部 経営システム工学科
トウ セイカ	東京理科大学	理工学部 経営工学科
竹田 愛佳	福岡工業大学	情報工学部 システムマネジメント学科
高田 瑞希	名古屋工業大学	工学部 社会工学科経営システム分野
後藤 虹南	厚生労働省所管 職業能力開発総合大学校	能力開発院生産管理系
工藤 大吾	法政大学	理工学部 経営システム工学科
大出 菜々美	日本大学	生産工学部 マネジメント工学科
角掛 亮太	秋田県立大学	システム科学技術学部 経営システム工学科
小峯 丈尚	成蹊大学	理工学部 システムデザイン学科
齋藤 広豊	千葉工業大学	社会システム科学部 経営情報科学科
柳 智也	筑波大学	理工学群 社会工学類
岩撫 映見	東海大学	情報通信学部 経営システム工学科
河西 裕次郎	千葉工業大学	社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
北浦 拓	東京工業大学	工学院 経営工学系
五十貝 翼	神奈川大学	工学部 経営工学科
河 晃秀	近畿大学	経営学部 経営学科
橋本 虎汰郎	大阪府立大学	工学域 電気電子系学類 情報工学課程

[IV] 調査, 研究, 見学及び視察 (定款第 4 条第 4 号)

支部及び研究部会を通して以下の通り活動した。

(1) 支部活動計画：支部委員会

1) 東北・北海道支部

ー北海道, 青森, 岩手, 秋田, 山形, 宮城, 福島

支 部 長: 笥 宗徳 (福島大学)

副支部長: 山口 俊憲

(山形県立産業技術短期大学校)

事 務 局: 〒960-1296

福島県福島市金谷川 1 番地

福島大学理工学群共生システム理工学類

笥 宗徳

E-mail: kakehi@sss.fukushima-u.ac.jp

① 支部総会

日 時: 2023 年 2 月 23 日 (木)

会 場: オンライン形式

出席者: 4 名

議 題:

(ア) 2022 年度支部事業, 中間決算報告

(イ) 2023 年度支部事業計画, 予算案

(ウ) 次期支部長・副支部長就任について

(エ) その他

② 運営委員会 (5 回)

2022 年 5 月 31 日 (火)

2022 年 9 月 30 日 (金)

2022 年 11 月 25 日 (金)

2022 年 12 月 23 日 (金)

2023 年 1 月 14 日 (土)

会 場: 電子メール会議

③ 研究発表会 (1 回)

日 時: 2023 年 2 月 23 日 (木)

会 場: オンライン形式

発表件数: 6 件

④ その他

特になし

⑤ 支部所属会員数 (2023 年 3 月末)

正会員数 32 名, 名誉会員数 0 名,

学生会員数 8 名, 賛助会員数 0 社

2) 関東支部

ー茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 山梨

支 部 長: 大久保寛基 (東京都市大学環境学部)

事 務 局: 〒227-0067

東京都八王子市東中野 742-1

中央大学 商学部 #21267
事務局担当者名 斎藤 正武
E-mail: msaito@tamacc.chuo-u.ac.jp
<https://sites.google.com/view/jima-kanto/>

① 支部運営委員会（3回）

- （ア）第1回支部運営委員会
日時：2022年4月23日（土）
会場：東京都市大横浜キャンパスとオンライン
出席者：10名
- （イ）第2回支部運営委員会
日時：2022年6月18日（土）
会場：オンライン形式
出席者：16名
- （ウ）第3回支部運営委員会
日時：2022年9月10日（土）
会場：中央大学後楽園キャンパス
出席者：10名

② 講演会（1回）

日時：2022年9月10日（土）
会場：中央大学後楽園キャンパスとオンライン
出席者：40名
講演①：山本久志 先生（東京都立大学）
講演題目：システムの最適設計 一連続型 k-システムの場合一
講演②：大場允晶 先生（日本大学）
講演題目：JIMA とともに産業界から大学に 一企業から大学への変身の節目に役立った JIMA一

③ 学生論文発表会

日時：2023年3月4日（土）
会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス
発表件数：48件
基調講演：石野智子様（日立製作所）
講演題目：経営工学分野の企業での取り組み事例と社会人になるに当たっての心構え

④ 支部所属会員数（2023年3月末）

正会員数 509 名，名誉会員数 15 名，
学生会員数 120 名，賛助会員数 10 社

3) 中部支部

一愛知，岐阜，三重，静岡

支部長：荒川 雅裕（名古屋工業大学）

事務局：〒466-8555

名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学工学部都市社会工学科内

事務局担当者名 荒川 雅裕

TEL：052-735-7408

E-mail: arakawa.masahiro@nitech.ac.jp

<http://pse.web.nitech.ac.jp/JIMA>

<http://www.jimanet.jp/office/branch/chubu/>

① 研究発表大会（卒論・修論発表会）

日時：2023年2月23日（木）

会場：オンライン形式（幹事校：名古屋工業大学）

「第4回オンライン研究セミナー」と同時開催

発表件数：18件

② 支部所属会員数（2023年3月末）

正会員数 77 名，名誉会員数 4 名，
学生会員数 17 名，賛助会員数 1 社

4) 北陸支部

一石川，富山，福井，新潟，長野

支部長：中野 真（金沢工業大学）

副支部長：石原 正彦（金沢工業大学）

事務局：〒921-8501

野々市市扇が丘 7-1

金沢工業大学基礎教育部修学基礎教育課程

事務局担当者名 中野 真

TEL：076-248-9758

FAX：076-294-6701

E-mail: mnakano@neptune.kanazawa-it.ac.jp

<http://jima-hokuriku.labos.ac/>

① 事例研究会

日時：2022年5月14日（土）

会場：オンライン形式

講演：

(1) グローバル競争下において競争優位な生産管理
人材の育成法に関する研究会
(金沢工業大学 准教授 中野 真 氏)

(2) 人材開発研究会

(杉本キャリア開発研究所 所長 杉本和夫 氏)

特別講演：

ボディビルって知ってますか？

(石川県ボディビルフィットネス連盟理事 小中 秀
俊 氏)

参加者：14 名

② 学生論文発表会（日本品質管理学会中部支部共催）

日時：2023年3月4日（土）

会場：オンライン形式

発表件数：5 件

参加者：10 名

③ 支部所属会員数（2023年3月末）

正会員数 27 名，名誉会員数 1 名，
学生会員数 4 名，賛助会員数 1 社

5) 関西支部

一大阪，京都，兵庫，和歌山，奈良，滋賀

支部長：寺島 和夫（龍谷大学名誉教授）

副支部長：間島 勝彦（公益社団法人日本技術士会）

事務局：〒577-8502

大阪府東大阪市小若江 3-4-1

近畿大学理工学部機械工学科

生産マネジメント工学研究室内

事務局担当者名 竹本 康彦

TEL：06-4307-4330

E-mail: jima.kansai@gmail.com

<https://sites.google.com/site/jimakansai/>

① 支部総会

日時：2022年7月9日（土）

会 場：大阪工業大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

出席者：17 名

議 題：

- (ア) 2021 年度支部事業報告
- (イ) 2021 年度支部決算報告
- (ウ) 2022 年度支部事業計画案
- (エ) 2022 年度支部予算案
- (オ) その他

特別講演会

題 名：日系企業の国際分業 自転車産業と二輪車産業を事例として

講 師：東 正志 氏 (名城大学)

参加者：32 名

② 委員会 (5 回)

(ア) 第 1 回運営委員会

日 時：2022 年 7 月 9 日 (土)

方 法：大阪工業大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

出席者：17 名

(イ) 第 2 回運営委員会

日 時：2022 年 8 月 29 日 (月)

会 場：オンライン会議室

出席者：11 名

(ウ) 第 3 回運営委員会

日 時：2022 年 10 月 28 日 (金)

会 場：龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

出席者：11 名

(エ) 第 4 回運営委員会

日 時：2022 年 12 月 14 日 (水)

会 場：オンライン会議室

出席者：12 名

(オ) 第 5 回運営委員会

日 時：2023 年 2 月 16 日 (木)

会 場：龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

出席者：13 名

③ セミナー (2 回)

(ア) 第 1 回経営工学セミナー (日本経営システム学会関西支部・日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会・日本情報経営学会関西支部共催)

日 時：2022 年 10 月 28 日 (金)

会 場：龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

題 名：社会を変えた QR コードの開発・進化と普及活動

講 師：原 昌宏 氏 (株式会社デンソーウェーブ)

題 名：人材定着に関する一考察 ～X 社の従業員満足度調査から～

講 師：山崎 哲弘 氏 (大阪成蹊大学)，高木 修一 氏 (大阪公立大学)

出席者：49 名

(イ) 第 2 回経営工学セミナー (日本経営システム学

会関西支部・日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会・日本情報経営学会関西支部共催)

日 時：2023 年 2 月 16 日 (木)

会 場：龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

題 名：サプライチェーンにおける材の流れの調整者

講 師：中道 一心 氏 (同志社大学)

題 名：「人に業務をつける」～障がい者視点発の改善による誰もが働きやすい環境作りの事例～

講 師：荒井 裕晃 氏 (オムロン京都太陽株式会社)

出席者：26 名

④ 学生論文発表会 (1 回)

(日本経営システム学会関西支部共催，日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会協賛)

日 時：2023 年 3 月 4 日 (土)

会 場：龍谷大学梅田キャンパスおよびオンライン会議室

発表件数：16 件

優秀学生発表賞：3 件

参加者数：52 名

⑤ 支部所属会員数 (2023 年 3 月末)

正会員数 122 名，名誉会員数 6 名，

学生会員数 8 名，賛助会員数 2 社

6) 中国四国支部

一鳥取，島根，岡山，広島，山口，香川，愛媛，高知，徳島

支 部 長：森川 克己 (広島大学)

副支部長：石原 良晃 (大島商船高等専門学校)

神垣 太持 (広島工業大学)

徐 祝旗 (愛媛大学)

事 務 局：〒739-8527

広島県東広島市鏡山 1-4-1

広島大学大学院先進理工系科学研究科内

事務局担当者名 森川 克己

TEL：082-424-7704

E-mail：cs.jima@gmail.com

<https://sites.google.com/site/csjima/>

① 支部総会

日 時：2022 年 5 月 14 日 (土)

会 場：広島工業大学を会場とした Zoom 利用のハイブリッド形式

議 題

(ア) 2021 年度事業報告，決算報告

(イ) 2022 年度事業計画，収支予算

(ウ) 2022 年秋季大会について

② 支部役員会 (3 回)

(ア) 第 1 回

日 時：2022 年 5 月 14 日 (土)

会 場：オンライン (Zoom)

議 題：支部総会審議事項

(イ) 第 2 回

日 時：2022 年 11 月 29 日 (火)

会 場：オンライン (Microsoft Teams)
議 題：次期の支部体制について
学生論文発表会の開催日と形態
次年度の事業計画・予算

(ウ) 第3回

日 時：2023年2月22日(水)
会 場：オンライン (Zoom)
議 題：支部長賞について
今年度の支部事業報告・決算報告
次年度の支部事業計画・予算

③ 講演会 (1回)

日 時：2022年5月14日(土)
会 場：オンライン (Zoom)
題 目：自社のための経営計画(戦略)をつくり実践
する中小企業の事例研究
—経営計画をいつ・なぜ必要とし、どのよ
うにつくり・実行するのか—

講 師：稲垣祐輔氏 (ina コンサルティング代表)
備 考：日本生産管理学会 中国・四国支部との共催
出席者：19名

④ 工場見学会 (1回)

日 時：2022年9月9日(金)
会 場：株式会社 マルニ木工 本社工場
参加者数：13名

⑤ 学生論文発表会 (1回)

日 時：2023年2月22日(水)
会 場：オンライン (Zoom)
発表件数：18件
参加者数：38名

⑥ 支部表彰

研究奨励賞：2件
支部長賞：4件
優秀研究発表賞：5件
研究発表賞：13件

⑦ 支部所属会員数 (2023年3月末)

正会員数 57名、名誉会員数 2名、
学生会員数 2名、賛助会員数 1社

7) 九州支部

—福岡、佐賀、熊本、大分、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄

支 部 長：徂徠 三十六 (日本文理大学)

副支部長：泉 丙完 (日本文理大学)

田嶋 拓也 (福岡工業大学)

事 務 局：〒811-0295

福岡市東区和白東 3-30-1

福岡工業大学情報工学部

システムマネジメント学科内

事務局担当者名 小林 稔 (Ms. 道下)

TEL：092-606-5930

FAX：092-606-0756

E-mail：kanjim@fit.ac.jp

(2023年度より jima.kyushu@gmail.com に
変更予定)

<http://www.fit.ac.jp/~t-tajima/JIMA/>

① 支部総会

日 時：2022年6月25日(土) 13:10-13:40

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研室 1
(Zoomによるハイブリッド開催)

参加者：17名(委任状7名を含む)

(ア) 議題

- A) 会員在籍状況・入退会状況報告
 - B) 2021年度事業報告
 - C) 2021年度会計(決算)報告
 - D) 2022年度事業計画、役員
 - E) 2022年度予算
 - F) 表彰対象の決定
 - G) その他 2022年度第2回研究会についてなど
- (イ) 意見交換会

② 運営委員会(支部幹事会) (3回)

(ア) 第1回

日 時：2022年6月25日(土) 12:00-13:00
会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研
室 1 (Zoomによるハイブリッド開催)
参加者：17名(委任状8名を含む)

(イ) 第2回

日 時：2022年9月17日(土) 12:30-13:50
会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研
室 1 (Zoomによるハイブリッド開催)
参加者：16名(委任状9名を含む)

(ウ) 第3回

日 時：2022年12月17日(土) 13:30-14:20
会 場：西南学院大学学術研究所大会議室
(Zoomによるハイブリッド開催)
参加者：17名(委任状6名を含む)

③ 定例セミナー (1回)

(協賛 日本生産管理学会九州支部主催)

日 時：2022年9月17日(土)
会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研室 1
第1発表 14:00-15:00

題 名：製品開発における特許活用に関する研究

講 師：泉 丙完 (日本文理大学)

第2発表 15:10-16:10

題 名：事前手指トレーニングがタイピング作業に及
ぼす効果

講 師：徂徠 三十六、松田 悠人 (日本文理大学)

参加者：10名

④ 研究会 (2回)

(ア) 第1回

日 時：2022年6月25日(土)
会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研
室 1 (Zoomによるハイブリッド開催)

第1発表：13:50-14:50

題 名：高度道路交通システムにおける MaaS
開発のチャレンジ

講 師：クラ エリス (福岡工業大学)

第2発表：15:00-16:00

題 名：不健康の社会学；体育・スポーツの
功罪

講 師：永松 昌樹 (龍谷大学非常勤講師・立
命館大学共同研究員)

参加者：12名

(イ) 第2回

日 時：2022 年 12 月 17 日（土）
会 場：西南学院大学学術研究所大会議室
（Zoom によるハイブリッド開催）
第 1 発表 14:30-15:30
題 名：マクロデータをを用いたマルコフモデル
の推定について
講 師：王 琦（長崎総合科学大学）
第 2 発表 15:40-16:40
題 名：Impact of Sustainability on
Financial Performance Concerning
Fashion - Textile Industry
講 師：Marcelina Aleksandra Malinowska（西
南学院大学）

参加者：12 名

⑤ 第 49 回学生論文発表会

日 時：2023 年 2 月 25 日（土）11:00-17:40
会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3（Zoom による
ハイブリッド開催）

発表件数：16 件

参加者：25 名

⑥ 見学会

〔新型コロナウイルス感染症の影響により中止〕

⑦ 学生会講講演会

日 時：2023 年 1 月 26 日（木）14:40-16:10
会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階多目的室
題 名：サプライチェーンマネジメントのこ
れまでと今後の課題について

講 師：挾間 雅義（宇部工業高等専門学校）

受講生：68 名

⑧ 支部所属会員数（2023 年 3 月末）

正会員数 30 名，名誉会員数 0 名，
学生会員数 2 名，賛助会員数 0 社

（2）研究部門・研究プロジェクト活動：研究委員会

1）生産・物流部門

（部門長：翁 嘉華）

① 概要

本部門では、サプライチェーンにおける生産・物流
に関する課題に対して、調査研究、理論研究および事
例研究を通して多角的に取り組み、解決を目指すこと
を目的とする。

② 研究部門活動報告

今年度は春季大会にて部門 OS を実施した。また、
オンラインセミナーを開催した。運営委員会の開催は
昨年度に引き続きメールベースで実施した。

③ 研究成果（研究発表等）

（ア）日本経営工学会 2022 年春季大会・研究部門 OS
「実務の課題と経営工学の活用」

- 池澤 克就，赤坂 信悟，翁 嘉華：
用途変換を考慮した循環型サプライチェーンの課
題とモデル化
- 大家 健司，小林 裕征，浦野 真穂，木内 敦規：
流通-製造同期最適化技術を用いた SCM とその適用
事例
- 沓掛 毅 1，赤坂 信悟 2，翁 嘉華：
知的生産業務の標準化に関する研究マーケット調

査分析業務を例として

（イ）日本経営工学会令和 4 年度第二回オンライン研究
セミナー（2022 年 9 月 9 日・オンライン開催）

梗概：産業界における経営工学の有効性を実体験な
どをもとに紹介し、今後の期待について見解を述べた。
講演者がこれまでに実社会で経験したり、知りえた情
報を中心にご紹介し、ディスカッションを行った。

- 成田 正久（株式会社日立産業制御ソリューション
ズ 営業統括本部副統括本部長）「産業界からみた
経営工学の有効性と今後の期待」
- 翁 嘉華「生産物流部門の活動紹介」

2）事業・市場部門

（部門長：新目 真紀）

① 概要

本部門では製造業を対象に事業・市場を創造・維持
するための運用方法を IoT や AI の先端技術を利用し
て構築することを目的とする。具体的には、科学技術
イノベーション（STI）の応用技術研究として、例えば、
Society5.0 for SDGs, DX (Digital Transformation), IoT,
AI, MR(Mixed Reality), ロボット, メタバース, サイ
バーセキュリティについて、国内外の最先端事例のケ
ーススタディを行う。成果に基づいて、特に経団連が
提唱しているサイバー空間と現実社会の融合による
社会全体の最適化を目指す「Society5.0 for SDGs」を
進化させた、ニューノーマルな自律協調分散型の『日本
版 スーパーシティ構想』を未来戦略デザインする。

本研究部門においては、青山学院ヒューマン・イノ
ベーション・コンサルティング株式会社主催の「未来
戦略デザイン推進会議」の研究プロジェクトの一部と
連携し、研究を進めている。「未来戦略デザイン推進
会議」では製造業（プログラム／プロジェクトマネジ
ャーなど）、コンサルティング（SI, SE）、大学関係
者による研究会を月一回程度開催し、国内外での PLM
および IoT や AI 技術及びスマート製品やプラットフ
ォーム・サービスについて議論するとともに、調査、
開発を行っている。この研究会は日本経営工学会会員
外を含み、選定を含めた専門技術者による非公開（年
1 回の公開フォーラムあり）の研究会である。

これらの研究成果は日本経営工学会春季・秋季大会
の OS を通して公開している。

② 研究部門活動報告

- （ア）日本経営工学会 2022 年春季大会（オンライン）研
究部門 OS にて研究報告（OS：2 件，発表：6 件）
OS 名：「「Society 5.0 for SDGs」を推進する未来
戦略デザイン人材開発」
- （イ）第 13 回横幹連合コンファレンス（オンライン）研
究部門 OS にて研究報告（発表：5 件）
- （ウ）日本経営工学会 2022 年秋季大会（オンライン）研
究部門 OS にて研究報告（OS：2 件，発表：6 件）
OS 名：未来戦略デザイン「SDGs & CE(circular
economy) の方法論とシステム技法」
- （エ）未来戦略デザイン推進会議の開催（非公開）
（第 1 回）2022 年 4 月 13 日（水），（第 2 回）5 月
17 日（火），（第 3 回）6 月 21 日（火），（第 4
回）7 月 26 日（火），（第 5 回）9 月 6 日（木），

(第6回) 10月19日(水), (第7回) 11月1日(火), (第8回) 12月21日(水), (第9回) 2023年1月25日(水), (第10回) 2月27日(月), すべて18:30-20:30, 場所: オンライン

(オ) 研究部門主催交流会の参加(公開)

(第3回) 2023年1月20日(金) 15:40-17:00 講演1「SDGs & CE(circular economy) の方法論とシステム技法の研究活動紹介」玉木 欽也(青山学院大学)、講演2:「CE 顧客サービスの AI デジタルマーケティング育成のための授業実践報告」、新目 真紀(職業能力開発総合大学校) 講演3: ゲスト講師事例紹介(コニカミノルタ(株) 河村和孝)、講演4:「IoT/DX 製品サービスのライフサイクル設計」荒川 雅裕(名古屋工業大学)、場所: オンライン

(カ) 経営システム誌7月号「Society 5.0 for SDGs を推進する未来戦略デザイン人材開発」発行

特集「Society 5.0 for SDGs を推進する未来戦略デザイン人材開発」を企画して、新目 真紀(職業能力開発総合大学校)、未来戦略デザイン・プロデューサー—社会課題解決と CSV— 高松 朋史(青山学院大学)、「未来戦略デザイン・システムクリエーター」の育成に対する問題解決型 IoT/DX システムの開発プログラムと実習による実証 荒川 雅裕(名古屋工業大学)・朴 英元(埼玉大学)・阿部 武志(青山学院 Hicon)・田崎 一広(富士フイルムビジネスイノベーション)、先端科学技術プラットフォームを活用した人材育成—インストラクショナルデザインによるタッチングポイントの設計—新目 真紀(職業能力開発総合大学校)・合田 美子(熊本大学)・半田 純子(職業能力開発総合大学校)、「未来戦略デザイン・システムクリエーター」の育成に対する問題解決型 IoT システムの開発プログラムとハンズオン実習による実証 小野 好之(青葉電子)・荒川 雅裕(名古屋工業大学)・玉木 欽也(青山学院大学)、DX 前コンサルティングに求められる人材育成—ダイナミック・ケイパビリティ向上に向けた支援—矢島 彩子(オージス総研)・新目 真紀(職業能力開発総合大学校)、事業構想のためのバックキャストリングに関する研究—バックキャストリングの効果とその活用—木内 正光(玉川大学)・後藤 智(PTC ジャパン)・友松 恵子(構造計画研究所)・織田 孝司(テクノプロ)・中邨 良樹(青山学院大学)・永田 義昭(Onemore)・玉木 欽也(青山学院大学)、プラットフォーム開発を目的とした教育プログラムの提案 中邨 良樹(青山学院大学)・木内 正光(玉川大学)・玉木 欽也(青山学院大学)、循環型経済(CE)と DX を融合した新たな経営戦略—CE 国内外調査と CE 実践の方法論とシステム技法の提案—玉木 欽也(青山学院大学)

③ 研究成果(研究発表等)

(ア) 2022年5月15日オンライン

セッション名: 未来戦略デザインの展望

日本経営工学会 2021 年春季大会

- 新目真紀,合田美子,半田純子,戸田真志「自己調整学習力が自動運転レベル3の学習に及ぼす効果検証」

証」

- 玉木欽也,新目真紀,鄭周華「ビジネスプロデューサー育成プログラムの設計と実証: 学習 BOM を活用したタレントマネジメントの提案」
- 荒川雅裕,繁昌可歩「システムプロデューサー育成プログラムの設計 言語解析を利用したサービスの作成法の開発」
- 荒川雅裕,朴英元,阿部武志,田崎一広スマート製品の開発を考慮したサービスの創造・設計プロセスの開発と評価
- E) 中邨良樹 木内正光 後藤智 友松恵子 織田孝司 永田義昭 玉木欽也「プラットフォーム開発を目的とした教育プログラムの提案 データマネジメントの実施と考察」

(イ) 第13回横幹連合コンファレンス企画セッション

2021年12月18日オンライン

セッション名: SDGs & CE(circular economy) の方法論とシステム技法

- 玉木欽也「CE 国内外調査と CE 実践の方法論とシステム技法の提案」
- 高松 朋史「多世代・循環型バリューチェーンマネジメント」
- 新目真紀,玉木欽也「サーキュラーエコノミーを推進するデジタルマーケティング育成プログラムの検討」
- 荒川 雅裕「IoT/DX 製品サービス・システムのライフサイクル設計方法」
- 木内正光,中邨良樹,玉木欽也「多世代・循環型 VCM 対応のシェアリング・プラットフォームの設計方法」

(ウ) 2021年11月26日オンライン

セッション名:「未来戦略デザイン Society5.0 for SDGs」
日本経営工学会 2021 年秋季大会

- 新目真紀,玉木欽也「未来戦略デザイン SDGs & CE(circular economy) デジタルマーケティング育成プログラムの効果検証」
- 玉木欽也「未来戦略デザイン: SDGs & CE(circular economy) の方法論とシステム技法」
- 荒川雅裕,繁昌可歩「未来戦略デザイン: IoT/DX 製品サービスにおける Circular Economy を目的とするライフサイクル設計」
- 高松朋史「未来戦略デザイン: 多世代・循環型バリューチェーンマネジメント」
- 木内正光「未来戦略デザイン: SDGs & CE(circular economy) の方法論とシステム技法」
- 中邨良樹,木内正光,玉木欽也「未来戦略デザイン: メタバース空間における会議の有効性について」

3) サービス部門

(部門長: 水山 元)

① 概要

サービス提供場は、抽象化すると、異なる私的情報を所持した複数の主体が提供側と需要側に分かれて相互作用する場であるともいえる。本部門では、このサービス提供場を対象にした数理的、工学的研究を対象とする。その中でも特に、複数人に分散している知識を集約する「集合知メカニズム」の考え方を、サー

ビス提供場を捉えるための「サービスマカニズム」に拡張し、その理論と応用について議論する。

② 研究プロジェクト活動報告

オンライン研究会を11回実施し、「経営工学会全国大会 OS の振り返り」や「サービスマカニズムデザインの応用」について議論した。また、対面でのセミナーを1回開催した。

(ア) オンライン研究会の実施

(第1回) 2022年4月1日, (第2回) 5月27日,
(第3回) 6月13日, (第4回) 6月24日, (第5回) 7月11日, (第6回) 8月17日, (第7回) 8月23日, (第8回) 10月7日, (第9回) 10月20日,
(第10回) 11月10日, (第11回) 3月30日

(イ) セミナーの開催

日時: 2022年12月18日, 15:00~18:00

会場: 早稲田大学

参加者: 20名

内容: 「Liquid Democracy and Algorithmic Game Theory」(講師: Mathbat Suzuki)

③ 研究成果(研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2022 年春季大会・研究部門 OS 「集合知メカニズムデザインの研究」, 一般 OS 「集合知メカニズムとその応用」(2022 年 5 月 21 日・神奈川大学みなとみらいキャンパス)

- 水山 元, 石井 和弥, 杉之内 将大: 予測モデルのコンペティション型クラウドソーシングサービスについてのゲーム理論分析
- 野中 朋美, 石井 雅芳, 白坂 成功, 本田 智巳, 大野 嘉子: オンライン技術を活用した食を起点とした集合知・コミュニケーション場の設計 — GAstroEdu “Lemon Adventure 2” ワークショップにおける一試行—
- 藤田 正典, 隈蔵 康一, 西野 成昭: 生命科学への AI 活用に向けた医療データの円滑な提供を促す集合知メカニズムフレームワーク
- 杉之内 将大, 今野 友喜, 水山 元: Scheduling Auction を活用した飲食店予約メカニズムの被験者実験による検証
- 藤井 信忠, 渡邊 るりこ, 國領 大介, 貝原 俊也, 関原 規晃, 玉置 久: クロスリカレンスプロットと動的時間伸縮法を用いた列車運転操作における特徴量抽出
- 頼 凜太郎, 中島 拓也, 木見田 康治, 村山 英晶, 西野 成昭: メカニズムデザインを応用した船舶自動運転のためのシミュレーションフレームワークの提案

(イ) 日本経営工学会令和4年度第二回オンライン研究セミナー(2022年9月9日・オンライン開催)

- 水山 元: 集合知メカニズムからサービスマカニズムへ
- 石川 竜一郎: サービス分析のためのシン・経済学
- 西野 成昭: サービスに対してどのように研究すべきか?

(ウ) 第13回横幹連合コンファレンス(2022年12月18日・早稲田大学)

- 藤 健勇, 石川 竜一郎: 多様な交渉能力を伴う値切り競争
- 杜 炳鑫, 高橋 裕紀, 西野 成昭: 階層構造を考慮した Random serial dictatorship メカニズムに関する研究
- 別府 啓至, 水山 元, 杉之内 将大: Shapley 値メカニズムの特性関数がデータ提供者の振舞いと予測モデルの性能に与える影響の評価
- 西山 浩平, 西野 成昭, 藤田 正典: ゴネ得が損になるようなメカニズムのデザイン—まちづくりにおける地権者との交渉プロセスに対する提案

4) 経営情報部門

(部門長: 山下 遥)

① 概要

経営情報分野における研究活動を継続して行う。特に、データ解析コンペティションの中間発表会、成果報告会を開催するとともに、全国大会におけるオーガナイズドセッションを企画する。

② 研究部門活動報告

前年度に引き続き、経営科学系研究部会連合協議会によるデータ解析コンペティションの一部会として参加し、部門主催の形で「データ解析コンペティション JIMA 予選会」を開催した。今年度は、は楽天株式会社様より購買履歴データが提供された。合計 11 チームが参加して、データ解析の技術と切り口を競った。聴講者も含め、JIMA 内外からの多くの参加があり、中間発表会における情報共有、最終成果発表会での審査を行い、最優秀賞、優秀賞 2 チーム、敢闘賞を 1 チーム、学生奨励賞を 2 チームに授与した。上位 2 チームを、3 月 20 日に行われた本選に推薦した。本選では、推薦したチームのうち 1 チームが最優秀賞を獲得した。

(ア) データ解析コンペティション JIMA 予選会中間発表会(2022 年 11 月 20 日・オンライン)

参加チーム: 11 チーム, 参加者: 45 名

(イ) データ解析コンペティション JIMA 予選会最終発表会(2023 年 2 月 26 日・対面)

参加チーム: 11 チーム, 参加者: 51 名

③ 研究成果(研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2022 年春季大会・研究部門 OS 「データ解析コンペティション 成果報告」 (2021 年 5 月 16 日・オンライン)

- 大澤 勇翔, 福田 竜也, 三川 健太: 母親向け情報サイトにおけるベストアンサー予測と重要質問抽出に関する一考察
- 河合 亜矢子, 楠木 祥文, 白井 康之, 森田 裕之, 後藤 裕介: ママ達の Q&A 型オンラインコミュニティにおける「共感」の重要性
- 東 将己, 松井 諒生, 馬嶋 海斗, 山根 大輝, 梅津 大雅, 原 朋史, 中田 和秀: 質問の時系列を考慮した複数の子供の年齢予測

(イ) 日本経営工学会令和4年度第三回オンライン研究セミナー(2023年1月20日・オンライン開催)

- 木村朋弘: データ解析コンペティションに参加して
- 茂木亮祐: 受託データ分析業の経験から振り返るデ

ータ解析コンペティション

- 齊藤史哲：研究活動としてのデータ解析コンペティションへの参加事例の紹介

5) 経営数理部門

(部門長：皆川 健多郎)

① 概要

近年の複雑化した社会において、対象に応じてより適切なコスト管理が必要とされる。またマーケティングについてもベイジアンネットワーク等の新しい手法による実証研究がなされつつある。このようなより複雑化するシステムに対する管理手法とその効果、考察を深める。

② 研究部門活動報告

経営数理分野における研究活動を継続して行った。特に、経営システム誌における特集を行うとともに、オンラインセミナーにて企画した。

③ 研究成果（研究発表等）

(ア) 経営システム（第32巻、第1号）研究部門報告

- 中出 康一，中西 海斗：多品種生産ラインにおける型板入れ替え時間最小化
- 皆川 健多郎：中小モノづくり企業におけるスマートモノづくりへの取り組みに関する考察—東大阪商工会議所・生産性向上支援事業をつうじて—
- 孫 晶，高 橋 広 祐：再エネ割合と電力需要変動を考慮した電力供給の統合モデル

(イ) 日本経営工学会令和4年度第三回オンライン研究セミナー（2023年1月20日・オンライン開催）

- 中出 康一，中西 海斗：多品種生産ラインにおける型板入れ替え回数最小化
- 楠川 恵津子：政府介入下での環境配慮型サプライチェーンの最適運用
- 孫 晶，高橋 広祐，山内 梨紗子：脱炭素化に向けた電力SCにおける最適な経営施策に関する研究

6) 人間・組織部門

(部門長：村田 康一)

① 概要

人間・組織分野の会員交流促進するための運営体制の見直しを行う。他部門や研究プロジェクトとの連携を検討しつつ、新たな運用体制で部門活動を開始した。

② 研究部門活動報告

部内のミーティングにおいて経営工学における人材育成を話題に取り上げた。第二回オンライン研究セミナーで発表を行った。また研究テーマや参加メンバーについて検討し、次年度以降の継続的な活動を行うための準備を行った。

(ア) 人間・組織部門ミーティング

(第1回) 2022年4月14日，(第2回) 2022年5月12日，(第3回) 2022年6月8日，(第4回) 2022年7月15日，(第5回) 2022年8月18日，(第6回) 2023年3月9日，いずれもオンライン

③ 研究成果（研究発表等）

(ア) 日本経営工学会令和4年度第二回オンライン研究セミナー（2022年9月9日・オンライン開催）

- 村田 康一：人間組織部門の活動紹介
- 鈴木 隆司：山形カシオ・スマートファクトリーの取り組み紹介
- 後藤 裕介：人材育成のための経営工学-

7) アグリ2フード・バリューネットワーク研究

(主査：大野高裕)

① 概要

データ駆動型社会の到来に伴い、農産物が食品となって消費されるまでのバリューチェーンにおいても、デジタルトランスフォーメーション(DX)の先進的技術を駆使した、様々な環境変化に対する高いレジリエンスと優れた効率性を実現する“次世代農産物バリューチェーン”の構築が期待されている。本プロジェクトでは、高度に発展した情報技術とデータ科学を前提とし、多様なプレーヤーの自律的な意思決定で構成される全体系が、ある種の効率性とレジリエンスを共有するような次世代の「農産物バリューチェーンの全体モデル」を再設計し、実証的にその有効性を検証する。

② 研究プロジェクト活動報告

研究プロジェクトの立ち上げ初年度ということもあり、プロジェクトの主要メンバーによる検討会を実施下記のとおりに実施した。

(ア) 第1回全体検討会

日時：2022年5月12日 13:00～15:00

場所：オンライン開催

- 研究員の現在の関連研究内容の紹介
- 今後の研究テーマ群の検討
- 個別の産学共同研究テーマの検討

(イ) 第2回全体研究会

日時：2022年12月15日(木) 14:00～16:00

場所：早稲田大学理工キャンパス+オンライン開催

- 科研費基盤研究(B)の申請報告-
- 産学共同研究の進捗報告
- メンバーの個別研究進捗報告

(ウ) 第3回全体研究会

日時：2023年3月30日(木) 17:30～19:00

場所：早稲田大学理工キャンパス+オンライン開催

- 科研費基盤研究(B)の採択報告および研究の進め方の検討-
- 産学共同研究の進捗報告
- メンバーの個別研究進捗報告

(エ) 産学共同研究

研究プロジェクトのメンバーであるデンソーと学術界メンバーによる農産物から食品に至るトレーサビリティがA2Fバリューネットワークにもたらす価値創造の具体的な方法開発やモデル構築を行っている。検討会の以下の通り開催した。

- 2022年6月2日(木) 13時～15時-
- 2022年6月24日(金) 10時～12時
- 2022年7月22日(金) 9時～11時
- 2022年8月9日(火) 9時～17時
- 2022年9月8日(木) 10時～12時
- 2022年10月3日(月) 17時～19時
- 2022年11月2日(木) 19時～21時
- 2023年2月9日(木) 17時～19時

- 2023 年 3 月 8 日（水）15 時～17 時

[V] 内外の関連機関との連携及び交流（定款第 4 条第 5 号）

活動報告

- （1）国際会議及び協賛学会情報の提供
国内外での開催会議 26 件の協賛承認を行い、「共催・協賛・関連行事のご案内」のページおよびメルマガに掲載した。なお、26 件中 FMES 協賛覚書準拠の案件が 10 件、国際会議が 4 件であった。
- （2）IFPR（ICPR）および IFPR-APR との連携
ICPR 2023 の HP 掲載
- （3）APIEMS との連携
APIEMS2022 の発表申込締切情報の更新, 入国審査関連情報の案内
APIEMS2023 の開催情報の HP 掲載
- （4）経営工学関連学会協議会（FMES）及び日本技術者認定機構（JABEE）への協力
JIMA 会員の JABEE 審査員資格の調査を行い、名簿を更新した。
- （5）横幹連合、日本工学教育協会、経営関連学会協議会との連携支援

上記 3 団体に対し、JIMA の会員継続手続きを行い各団体の最新情報を専用ホームページで提供した。

[VI] その他前条の目的を達成するために必要な事業

（定款第 4 条第 6 号）

特になし

6. 1. 2 処務の概要

〔Ⅰ〕 役員等に関する事項

2023 年 3 月末現在

職 名	常非別	氏 名	就任（重任）年月日	担当職務	報酬	現 職	備考
会 長	非常勤	大野 高裕	2021 年 6 月 3 日	業務の総括	無	早稲田大学	
副会長	〃	辛島 光彦	〃	大会	〃	東海大学	
副会長	〃	藤野 直明	〃	産学官連携	〃	株式会社 野村総合研究所	
理 事	〃	石垣 綾	〃	経営システム誌編集、表彰	〃	東京理科大学	
理 事	〃	翁 嘉華	〃	国際・渉外	〃	神奈川大学	
理 事	〃	倉田 久	〃	論文誌編集	〃	横浜国立大学	
理 事	〃	鈴木 秀男	〃	会員	〃	慶応義塾大学	
理 事	〃	中川 慶一郎	〃	企画・行事	〃	株式会社NTT データニューソン	
理 事	〃	蓮池 隆	〃	庶務	〃	早稲田大学	
理 事	〃	堀川 三好	〃	研究	〃	岩手県立大学	
理 事	〃	皆川 健多郎	〃	財務、人材育成	〃	大阪工業大学	
理 事	〃	宗澤 良臣	〃	支部	〃	広島工業大学	
監 事	〃	開沼 泰隆	〃	監事	〃	東京都立大学	
監 事	〃	西岡 久充	〃	監事	〃	龍谷大学	

〔Ⅱ〕 職員に関する事項

2023 年 3 月末現在

なし

2022 年度社員（会員）異動状況報告書
(2023 年 3 月 31 日現在)

2023 年 3 月末社員数 30
2022 年 3 月末社員数 30
増減数 0

支部	正会員	正会員 (賛助代表)	学生会員	賛助会員	名誉会員	支部計
東北・北海道	32	0	8	0	0	40
関東	509	7	120	10	15	661
中部	77	0	17	1	4	99
北陸	27	1	4	1	1	34
関西	122	0	8	2	6	138
中国四国	57	1	2	1	2	63
九州	30	0	2	0	0	32
海外	1	0	1	0	0	2
合計	855	9	162	15社/16口	28	1,069
前年度末	908	10	140	16社/18口	26	1,100
増減	-53	-1	22	-1社/-2口	2	-31

〔Ⅲ〕会議等に関する事項

（１）理事会

１）第36期第5回理事会

開催日：2022年8月8日（土）9:00-11:05

場 所：Web 会議

議決事項：

- ① 研究部門運営細則改正の件
 - ② 入会の件
 - ③ 第37期役員選挙のWeb化の依頼先の件
- 以上3件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 第二回オンライン研究会セミナーについて
 - ② Zoom アカウントの運営方法について
 - ③ HP の更新について
 - ④ 2023 年春季大会の開催について
- 以上4件について協議した。報告事項は5件である。

２）第36期第6回理事会

開催日：2022年11月26日（土）11:45-12:45

場 所：広島工業大学 五日市キャンパスと Web によるハイブリッド会議

議決事項：

- ① 入会の件
- 以上1件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2023 年春季大会の開催校学会開催補助制度活用のための対象者参加費特別控除について
 - ② 2023 年春季大会の会場費の20万円超過について
- 以上2件について協議した。報告事項は7件である。

３）第36期第7回理事会

開催日：2023年1月21日（土）9:00-10:32

場 所：Web 会議

議決事項：

- ① 入会の件
 - ② 2022 年度表彰委員会 審査結果の件
 - ③ 2023 年度学会業務委託契約書について
- 以上3件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2023 年度予算案について
 - ② 支出申請書承認システムの変更について
 - ③ 2023 年度事業計画について
 - ④ 2023 年秋季大会の開催について
- 以上4件について協議した。報告事項は5件である。

４）第36期第8回理事会

開催日：2023年3月11日（土）9:00-10:25

場 所：Web 会議

議決事項：

- ① 2023 年度事業計画について
- ② 2023 年度予算案について
- ③ 2022 年度表彰委員会 再審査結果について
- ④ 入会および異動の件
- ⑤ 名誉会員推薦候補者の件
- ⑥ 論文誌編集委員会 委員長代行の件
- ⑦ 法人運営に関する弁護士費用の支出の件

以上7件について全会一致で承認した。

協議事項：

協議事項はなし。報告事項は5件である。

（２）理事会みなし決議

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条「理事会の決議の省略」に基づき、以下のみなし決議を行なった。

１）2022 年度事業計画の件

開催日：2022年3月15日（火）～3月24日（木）

提案に対し、2022年3月24日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

２）2021 年度事業/収支・決算報告書の件

開催日：2022年4月20日（水）～4月25日（月）

提案に対し、2022年4月25日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

３）入会の件

開催日：2022年4月20日（水）～4月25日（月）

提案に対し、2022年4月25日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

４）研究部門の委嘱について

開催日：2022年7月1日（金）～7月12日（火）

提案に対し、2022年7月12日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

５）2022 年度春季大会のBPA の受賞者について

開催日：2022年7月1日（金）～7月12日（火）

提案に対し、2022年7月12日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

６）第37期役員選挙のWeb化に関して

開催日：2022年7月1日（金）～7月12日（火）

提案に対し、2022年7月12日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

7) 経営工学会次期役員・代議員選挙委員会委員の件

開催日：2022年10月24日（月）～10月28日（金）

提案に対し、2022年10月28日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

8) 2022 年度秋季大会の BPA の受賞者の件

開催日：2022年12月5日（月）～12月19日（月）

提案に対し、2022年12月19日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

9) 入会の件

開催日：2022年12月5日（月）～12月19日（月）

提案に対し、2022年12月19日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

(3) 総会

2022 年度定時総会

開催日：2022年5月21日（土）16:00-16:42

場所：神奈川大学みなとみらいキャンパス

報告事項：

- 1.1 2021 年度事業報告、学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告
- 1.2 監査報告
- 1.3 2022 年度事業計画、収支予算報告
- 1.4 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

審議事項：

- 第一号議案 2021 年度事業報告及び収支決算報告の件
第二号議案 名誉会員推戴の件

(4) 各種委員会

1) 庶務委員会

理 事：蓮池 隆

委員長：佐藤 哲也

委 員：佐藤 公俊、佐藤 哲也、北條 仁志、三川 健太

① 活動報告

- (ア) 第 36 期理事会の運営や資料作成、議事録作成などを行った。
- (イ) メールマガジン（毎月 1 日、15 日発行）の掲載依頼内容及び事務局が作成した記事内容を確認するとともに、事務局への配信依頼を行った。
- (ウ) 各種委員会や研究部門・研究プロジェクト、あるいは公募情報などのホームページ掲載依頼を集約し、事務局へ更新を依頼するとともに、依頼者への更新結果の連絡なども行った。

- (エ) 業務委託内容を精査し、事務局に依存しない学会運営を検討するとともに、無駄の削減を行い、次年度の国際文献社との契約や予算案に反映させた。
- (オ) 事業計画書及び事業報告書の取りまとめや確認を行った。

② 委員会の開催

- ①で記載の活動に関して、随時メールベースで内容の確認、協議が必要な場合は協議を行った。

2) 研究委員会

理 事：堀川 三好

委員長：後藤 祐介

委 員：佐藤 公俊、新目 真紀、山下 遥、孫 晶

① 活動報告

研究部門および研究プロジェクトの運営が円滑に行えるように情報提供等の支援を行った。また、今後行う予定であるオンライン研究会・セミナーについて企画立案や調整を行った。

② 委員会の開催

(ア) 第 1 回 研究委員会

開催日：2022年5月22日 12:30-13:10

場所：神奈川大学みなとみらいキャンパス

議題：サービス部門の人選について、オンライン研究セミナー企画、

拡大委員会として部門長および研究委員が参加

(イ) 第 2 回 研究委員会

開催日：2022年7月14日 18:00-18:50

場所：オンライン会議

議題：オンライン研究セミナーについて、研究部門・研究プロジェクト運営細則改訂について、サービス部門長の人選について

(ウ) 第 3 回 研究委員会

開催日：2022年11月22日 18:00-19:00

場所：オンライン会議

議題：研究プロジェクト申請について、オンライン研究セミナーの実施方法について、令和 5 年度の研究部門体制について

(エ) その他

随時メールベースで審議を実施。

3) 日本経営工学会論文誌編集委員会

理 事：倉田 久（2021 年 6 月 6 日～）

委員長：椎名 孝之、秋葉 知昭（2023 年 1 月 16 日より代行）

副委員長：秋葉 知昭、鈴木 定省、片山 直登

委 員：阿部 圭司、翁 嘉華、鬼頭 朋見、高野倉 雅人、滝 聖子、武市 祥司、田中 正敏、中出 康一、中山 景央、成島 康史、朴 元熙、細田 高道、村田 康一、

- ① 日本経営工学会論文誌（Journal of Japan Industrial Management Association）和文号 Vol.73, No.1～No.4, 英文号 2E, 4E を発行した。

- ② 2021 年度の第 36 期論文誌編集委員会の論文編集活動を継続する形で 2022 年度にも論文誌編集会議を以下のように開催し、論文の査読状況を確認すると

ともに、編集方針等の各議題について協議した。

(ア) 第1回 委員会

開催日：2022年6月17日(金) 18:00-18:30

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) 論文賞等の推薦記入箇所の表現の変更
- C) 今後の日程調整
- D) その他として投稿システムの副編集長ロールの説明

(イ) 第2回 委員会

開催日：2022年8月19日(金) 18:00～18:30

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) AE 関連の諸問題の報告
- C) 今後の日程調整
- D) その他

(ウ) 第3回 委員会

開催日：2022年10月14日(金) 18:00～18:30

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) 海外からの投稿料支払いに不足金が発生した事案
- C) 今後の日程調整
- D) その他

(エ) 第4回 委員会

開催日：2022年12月16日(金) 18:00～18:26

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) 海外からの送金に対する基本対応方針の確認
- C) 定年予定のJIMA 会員に対する投稿料の決定
- D) 次回の日程調整
- E) その他

(オ) 第5回 委員会

開催日：2023年2月17日(金) 18:00～18:30

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) Editorial Manager のキーワード入力文の文面・例示について
- C) その他

(カ) 第6回 委員会

開催日：2023年2月17日(金) 18:00～19:30 (予定)

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) その他

- ③ 投稿論文に対するエリアエディタの差配や査読結果等については、Editorial Manager 上でその都度対応した。

4) 企画行事委員会

理 事：中川 慶一郎

委員長：西村 泰一

委 員：金子 雅明、田中 岳、田畑 智章

会員並びに非会員を対象に経営工学の専門分野並びに関連分野の諸問題について交流・教育のための各種の行事を実施した。

① 会合の開催

今年度は企画業委員会独自の取り組みとしては産学協奏セミナー、研究委員会と共同でオンライン研究セミナーを実施した。

(ア) 第1回産学協奏セミナー (オンライン会議)

開催日：2022年4月16日(土)14:00～15:30

テーマ：「ウイズ・コロナ時代のオフィスワーク、その生産性定量評価手法の試み」

講演者：株式会社オフィスソリューション 代表取締役 宮崎敬氏

(イ) 第2回産学協奏セミナー (オンライン会議)

開催日：2022年9月17日(土) 14:00～15:30

テーマ：「消費財市場におけるマーケティングの変わらぬ本質と激変する戦術」

講演者：NPO 法人わがまち 100 理事長 江口正明氏

(ウ) 第3回産学協奏セミナー (オンライン会議)

開催日：2023年2月11日(土) 14:00～15:30

テーマ：「大学の研究成果を活用してこそ、技術ベンチャーたり得る」

講演者：株式会社チトセロボティクス 代表取締役社長 西田亮介氏

(エ) 第1回オンライン研究セミナー

開催日：2022年7月22日(金)14:00～15:30

テーマ：「逆境から飛躍への道を切り拓く ～科学的理論としての全体最適のマネジメント理論TOC～」

講演者：株式会社ゴールドラットジャパン CEO 岸良裕司氏

(オ) 第2回オンライン研究セミナー

開催日：2022年9月9日(金)14:00～15:30

テーマ：「経営工学ビジョンを考える。」

(1)「経営工学の提供価値」

(2)「第4次産業革命・DX・Society5.0と21世紀の経営工学 ～スマートマニュファクチャリングを取り巻く経営・システム・エンジニアリング～」

講演者：(1)JIMA企画行事担当理事・広報関係TFメンバー 中川慶一郎氏

(2)ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会アドバイザー兼デジタルアーキテクチャデザインセンター製造デジタル研究員 水上潔氏

(カ) 第3回オンライン研究セミナー

開催日：2023年1月20日(金) 14:00～15:30

テーマ：「経営工学会論文賞および経営工学実践賞受賞者による招待講演」

(1)「固定ロットサイズ見込生産環境における生産座席予約システムに関する研究」

- (2)「自動車販売店における動画解析技術を用いた顧客行動の可視化と結果の活用」
 講演者：(1)日本ファイルコン株式会社 林千宏氏
 (2)株式会社アゼスト 香取徹氏
- (キ) 第4回オンライン研究セミナー
 開催日：2023年2月10日（金）14:00～15:30
 テーマ：「経営工学会論文賞および経営工学実践賞受賞者による招待講演」
 (1)「DXの本質とパラダイム転換～システム・オブ・システムズの時代のイノベーションモデルとビジネスモデル～」
 (2)「作業者の行動の可視化とIEの融合」
 講演者：(1)株式会社野村総合研究所 藤野直明氏
 (2)岩手県立大学 堀川三好氏

5) 人材育成委員会

理事：皆川 健多郎

委員長：笈 宗徳

委員：玉木 欽也

- ① 「技術士を目指そう」説明会 オンライン
 経営工学3団体連携事業による説明会を開催
 開催日：2022年12月10日（土）13:00-16:00
 場所：オンライン
 参加者：38名
 内容：
 (ア) 技術士について
 (イ) 技術士資格取得のメリット（体験談）
 (ウ) 学会 CPD と資格挑戦への支援
 (エ) 試験内容と受験準備のポイント
 (オ) 専門グループ別相談・アドバイス

6) 会員委員会

理事：鈴木 秀男

委員長：山下 遙

委員：八木 英一郎、岩本 大輝

- ① 委員会の開催
 (ア) 第1回会員委員会
 開催日：2023年4月13日（木）
 ～4月14日（金）
 場所：メール審議
 議題：
 A) 2022年度の活動報告
- ② 定期の委員会審議/情報交換
 開催日：随時
 場所：メールによる審議/情報交換
 活動内容：
 A) 入退会申請の確認、事務局への問い合わせ
 B) 名誉会員候補者の確認、理事会への審議提案
 C) 会費未納会員に関する確認、督促の指示
- ③ 会員情報原本管理
 A) セキュリティ上の管理
 B) 会員情報の整合性管理

7) 財務委員会

理事：皆川 健多郎

委員長：田畑 智章

委員：阿部 圭司、平井 裕久

委員：阿部 圭司、平井 裕久

- ① 第1回委員会
 開催日：2022年11月27日（日）
 場所：広島工業大学（オンライン同時）
 議題：
 (ア) 電子承認システムの運用
 (イ) 取り組みに関する意見交換
- ② 第2回委員会
 開催日：2022年11月30日（水）
 場所：メール審議
 議題：
 (ア) 2023年度事業計画、予算案の検討
- ③ 第3回委員会
 開催日：2022年12月15日（木）
 場所：メール審議
 議題：
 (ア) 2023年度予算案の検討

8) 表彰委員会

理事：石垣 綾

委員長：竹本 康彦

委員：川村 大伸、倉田 久、鈴木 秀男、
 宗澤 良臣、八木 英一郎、山下 遙、

- ① 委員会開催報告
 (ア) 第36期第4回委員会
 開催日：2022年4月26日（火）
 ～2022年5月6日（金）
 場所：メール審議
 議題：
 A) 春季大会でのBPA実施の検討
- (イ) 第36期第5回委員会
 開催日：2022年5月22日（日）
 場所：対面、Zoomのハイブリッド開催
 議題：
 A) 春季大会でのBPAの選考
 表彰規程の改訂
- (ウ) 第36期第6回委員会
 開催日：2022年11月7日（月）
 場所：Zoomによるオンライン開催
 議題：
 A) 秋季大会のBPA実施の検討
 B) 各賞の推薦依頼の準備
- (エ) 第36期第7回委員会
 開催日：2022年11月27日（日）
 場所：対面、Zoomのハイブリッド開催
 議題：
 A) 秋季大会でのBPAの選考
 B) 表彰全体の検討及び特別賞細則の改訂
- (オ) 第36期第8回委員会
 開催日：2022年12月26日（月）
 場所：Zoomによるオンライン開催
 議題：
 A) 学会賞・実践賞候補者及び論文賞・奨励賞
 対象論文の最終決定
- (カ) 第36期第9回委員会
 開催日：2023年1月28日（土）

～2023 年 2 月 2 日（木）

場 所：メール審議

議 題：

- A) 優秀学生賞依頼校の検討
- B) 論文奨励賞の再審査

9) 大会委員会

理 事：辛島 光彦

委員長：木内 正光

委 員：楠川 恵津子，加藤 麻樹，小林 稔，
嶋崎 真仁，田畑 智章，長沢 敬祐，
西口 宏美，八木 英一郎

① 研究発表大会

(ア) 春季大会

日時：2022 年 5 月 21 日（土）～22（日）

場所：ハイフレックス開催（神奈川大学）

大会組織委員長：高野倉 雅人

テーマ：「ウィズコロナ時代の社会創造に対する
経営工学の挑戦」

(イ) 秋季大会

日時：2022 年 11 月 26 日（土）～27 日（日）

場所：ハイフレックス開催（広島工業大学）

大会組織委員長：宗澤 良臣

② 委員会開催報告

(ア) 第 1 回

開催日：2022 年 11 月 27 日（日）

場 所：ハイフレックス（広島工業大学&Zoom）

議 題：

- A) 2023 年度大会委員会予算案
- B) 春季大会のハイフレックス開催の課題と秋季大会での対応状況
- C) 大会実施要項の見直しについて
- D) 2023 年春季大会準備状況の報告
- E) 2023 年秋季大会開催校検討状況
- F) その他

出席者：5 名

(イ) その他

メール会議にて都度開催

- A) 2022 年春季大会プログラム編成について
- B) 2022 年春季大会決算報告
- C) 2022 年秋季大会プログラム編成について
- D) 2022 年秋季大会決算報告
- E) 2023 年春季大会について
- F) 2023 年秋季大会について
- G) 2023 年度事業計画と予算案について
- H) 2022 年度事業報告について

1.0) 国際・渉外委員会

理 事：翁 嘉華

委員長：大森 峻一

副委員長：松野 思迪

委 員：孫 晶，赤木 宏匡，降旗 徹馬，中山 景央，長
沢 敬祐，細田 順子，挾間 雅義，蔵本 薫

① 委員会

(ア) 第 36 期第 3 回 委員会

開催日：2022 年 5 月 22 日（日）12:30-13:30

場 所：神奈川大学と ZOOM のハイフレックス
議 題：

- A) JIIE 相互研究会
- B) FMES 事務局

C) 経営システム誌への国際会議報告の推薦依頼
出席者：8 名

(イ) 第 36 期第 4 回 委員会

開催日：2022 年 11 月 27 日（火）

場 所：広島工業大学と ZOOM のハイフレックス
議 題：

- A) 経営システム誌への寄稿報告
 - B) 2023 年度の事業計画(案)と予算案の情報共有
 - C) CHIE・KIIIE などの海外団体との連携強化
- 出席者：8 名

② 2022 年度の主な活動結果

(ア) APIEMS との連携

A) APIEMS2022 の発表申込締切情報の更新，入
国審査関連情報の案内

B) APIEMS2023 の開催情報の HP 掲載

(イ) IFPR (ICPR) および IFPR-APR との連携

③ 国際会議の情報提供

JIMA 会員の関心のあると思われる研究領域の国際会議の開催情報を「国際会議のご案内」のページに 4 件掲載した。このページは毎月の更新，見直しをしている。また，メルマガには隔号で直近 3 カ月に締め切りを迎える会議を掲載している。

④ 他学協会との共催，協賛事業の支援

国内外での開催会議 26 件の協賛承認を行い，「共催・協賛・関連行事のご案内」のページおよびメルマガに掲載した。なお，26 件中 FMES 協賛覚書準拠の案件が 10 件，国際会議が 4 件であった。

⑤ 日本 IE 協会との連携

組織間の連携方針は未定。但し，両団体とも産学連携には積極的であることから，まず個人的な連携は積極的に行うことが推奨されている。

⑥ CHIE・KIIIE などの海外団体との連携強化

APIEMS2022 の開催期間中に，CHIE の会長や過去 EAWIE 担当の方とのコミュニケーションを行った。今後も引き続き積極的に JIMA との連携を強化していく意思が確認できた。色んなレベルでの連携の具体化についての議論を進めていく必要がある。

その他，現状 JIMA 協賛の国際学会は少ないので，今後可能な範囲で増やしたい。

1.1) 経営システム誌編集委員会

理 事：石垣 綾

委員長：川村 大伸

副委員長：高野倉 雅人，広谷 大助

委 員：滝 聖子，孫 晶

① 発行状況

「経営システム」誌 (Communications of JIMA)，
Vol.32, No.1・No.2 を冊子体と電子媒体の両方にて
発行した。

(発行年月 巻-号 発行部数)

(ア) 2022 年 7 月 15 日，32-1，1,800 部

(イ) 2023 年 1 月 15 日, 32-2, 1,800 部

② 委員会開催報告

(ア) 第 36 期第 7 回委員会

開催日: 2022 年 7 月 10 日 (水)

場 所: Teams によるオンライン開催

議 題:

A) 経営システム Vol.32, No.2 の件

(イ) 第 36 期第 8 回委員会

開催日: 2022 年 9 月 20 日 (火)

場 所: Teams によるオンライン開催

議 題:

A) 経営システム Vol.32, No.2 の件

(ウ) 第 36 期第 9 回委員会

開催日: 2022 年 9 月 29 日 (木)

場 所: Teams によるオンライン開催

議 題:

A) 経営システム Vol.32, No.2 の件

(エ) 第 36 期第 10 回委員会

開催日: 2022 年 12 月 12 日 (月)

場 所: Teams によるオンライン開催

議 題:

A) 経営工学実践賞受賞候補者の検討

(オ) 第 36 期第 11 回委員会

開催日: 2023 年 2 月 24 日 (金)

場 所: Teams によるオンライン開催

議 題:

A) 経営システム Vol.33, No.1 の件

(カ) 第 36 期第 12 回委員会

開催日: 2023 年 3 月 3 日 (金)

場 所: Teams によるオンライン開催

議 題:

A) 経営システム Vol.33, No.1 の件

1.2) 支部委員会

理 事: 宗澤 良臣

委員長: 宗澤 良臣

委 員: 各支部支部長, 事務局長, 支部推薦者

① 支部委員との Mail による報告・意見交換

A) 2021 年度事業報告と 2022 年度予算の作成依頼

B) 合同の学生論文発表会について

C) 2022 年度事業報告の作成依頼

1.3) 産官学連携委員会

理 事: 藤野 直明

委員長: 藤野 直明

委 員: 松尾 博文, 増田 靖

物流業、製造業、小売流通業の領域を対象とする産官学連携に関わるイベントへ登壇し、経営工学や関連領域の「学」の重要性をアピールする活動を行った。

A) 物流業関係

・運輸総合研究所調査研究委員会「デジタル技術の活用による持続可能な物流システムの構築に関する研究」委員

・日本ロジスティックシステム協会サブライチェーン戦略スクール登壇「経営と SCM」(2 回/年) 経営工学の紹介を併せて行った。

・「フィジカルインターネットシンポジウム

2022」(11/1) でのパネルディスカッション登壇

<https://special.nikkeibp.co.jp/atclh/ONB/22/pis22/>

B) 製造産業関係

・システムイノベーションセンター経営者研修講座(2/1)にてパネルディスカッションのコーディネータを務めた。

<https://sysic.org/news/3212.html>

・ロボット革命・産業 IOT イニシアティブ協議会国際シンポジウム(10/27)にてパネルディスカッションのコーディネータを務めた。

https://www.jmfrri.gr.jp/event_seminar/3344.html

・一般財団法人エンジニアリング協会(ENAA)次世代スマート工場のエンジニアリング研究会事例調査分科会の座長として活動。同協会が主催する MES シンポジウム(9/1)で登壇。また、文部科学省プロジェクト「社会人向けの MES 人材育成カリキュラム開発と講義」を ENAA と連携して行った。

・日本生産性本部「生産革新マネジメントコース組織変革とリーダーシップコース」へ登壇(1/6)「DXの本質とパラダイムシフト」

C) 小売流通業関係

・日本小売業協会 CIO 研究会ステアリングコミティのコーディネータを務めた。

https://japan-retail.or.jp/jra_activities/20200325/

・日本小売業協会で開催した「流通・小売業 CIO アカデミー」(5~6月)のカリキュラム開発と総合講師を務めた。[https://japan-](https://japan-retail.or.jp/jra_activities/22_05_14/)

[retail.or.jp/jra_activities/22_05_14/](https://japan-retail.or.jp/jra_activities/22_05_14/)

・日本小売業協会主催「流通 IT リーダーシップフォーラム 2022」(11/8)において、全体コーディネーションとパネルディスカッションのコーディネータを務めた。

[https://japan-retail.or.jp/kouri/wp-](https://japan-retail.or.jp/kouri/wp-content/themes/bones_theme_kouri/img/jra_activities/22_11_08/pdf/pamphlet.pdf)

[content/themes/bones_theme_kouri/img/jra_activities/22_11_08/pdf/pamphlet.pdf](https://japan-retail.or.jp/kouri/wp-content/themes/bones_theme_kouri/img/jra_activities/22_11_08/pdf/pamphlet.pdf)

(5) 許可, 認可, 承認, 証明等に関する事項

該当事項なし。

(6) 契約に関する事項

一般財団法人学会誌刊行センターと「日本経営工学会論文誌」および「経営システム」編集発行業務について 2022 年度(2022 年 4 月 1 日~2023 年 3 月 31 日)の代行委託契約を締結した。

株式会社国際文献社と学会事務局の会員業務, 会計業務, 理事会運営業務, その他発生する業務について 2022 年度(2022 年 4 月 1 日~2023 年 3 月 31 日)の代行委託契約を締結した。

(7) 寄付金に関する事項

該当事項なし。

(8) 主務官庁からの連絡事項

- 2022 年 4 月 1 日「事業報告等の提出」提出のご案内 (A)
- 2022 年 5 月 1 日「事業報告等の提出」提出のご案内 (B)
- 2022 年 6 月 1 日「事業報告等の提出」提出のご案内 (C)

(9) その他重要事項

該当事項なし。

(10) 附属明細書

該当事項なし。

6. 1. 3 収支決算報告

[I] 財務諸表

貸借対照表

正味財産増減計算書

予算対比正味財産増減計算書

財産目録

財務諸表に対する注記

附属明細書

貸借対照表

令和 5年 3月31日現在

公益社団法人 日本経営工学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	16,868,521	14,892,733	1,975,788
流動資産合計	16,868,521	14,892,733	1,975,788
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
公益目的事業運営資産	22,000,000	22,000,000	0
創立80周年記念事業準備金	1,250,000	1,000,000	250,000
選挙積立金	0	600,000	△ 600,000
特定資産合計	23,250,000	23,600,000	△ 350,000
固定資産合計	23,250,000	23,600,000	△ 350,000
資産合計	40,118,521	38,492,733	1,625,788
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,584,128	704,465	879,663
前受金	76,000	242,000	△ 166,000
前受会費	96,000	136,000	△ 40,000
預り金	947	0	947
流動負債合計	1,757,075	1,082,465	674,610
負債合計	1,757,075	1,082,465	674,610
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	38,361,446	37,410,268	951,178
(うち特定資産への充当額)	23,250,000	23,600,000	△ 350,000
正味財産合計	38,361,446	37,410,268	951,178
負債及び正味財産合計	40,118,521	38,492,733	1,625,788

正味財産増減計算書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	439	439	0
特定資産受取利息	439	439	0
正会員受取入会金	60,000	90,000	△ 30,000
学生会員受取入会金	67,000	66,000	1,000
正会員受取会費	8,411,000	8,837,000	△ 426,000
当年度	8,191,000	8,481,000	△ 290,000
過年度	220,000	356,000	△ 136,000
学生会員受取会費	468,000	384,000	84,000
当年度	444,000	368,000	76,000
過年度	24,000	16,000	8,000
賛助会員受取会費	700,000	800,000	△ 100,000
事業収益	6,650,151	7,172,830	△ 522,679
春季大会事業収益	1,764,000	2,245,000	△ 481,000
秋季大会事業収益	2,268,000	1,449,000	819,000
論文誌掲載収益	2,142,450	2,931,500	△ 789,050
別刷代収益	25,240	67,310	△ 42,070
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	221,760	257,400	△ 35,640
バックナンバー収益	24,153	18,072	6,081
支部収益	44,548	44,548	0
雑収益	303,410	163,187	140,223
受取利息	54	51	3
雑収益	303,356	163,136	140,220
経常収益計	16,660,000	17,513,456	△ 853,456
(2) 経常費用			
事業費	11,748,305	10,294,666	1,453,639
臨時雇賃金	327,560	116,414	211,146
会議費	571,279	13,256	558,023
通信運搬費	593,238	642,899	△ 49,661
消耗品費	278,584	153,063	125,521
印刷製本費	5,228,263	5,613,090	△ 384,827
諸謝金	428,359	462,968	△ 34,609
支払負担金	66,000	53,350	12,650
支払手数料	13,263	13,201	62
HP関係費	120,571	120,571	0
委託費	3,879,418	2,839,077	1,040,341
他学協会連携関係維持費	198,000	208,000	△ 10,000
雑費	43,770	58,777	△ 15,007
管理費	3,960,517	3,586,167	374,350
旅費交通費	0	330	△ 330
通信運搬費	157,904	133,670	24,234
消耗品費	4,884	22,716	△ 17,832
印刷製本費	30,277	10,538	19,739
租税公課	1,070	2,030	△ 960
支払手数料	96,599	97,027	△ 428
HP関係費	46,530	46,530	0
委託費	3,571,553	3,240,876	330,677
雑費	51,700	32,450	19,250
経常費用計	15,708,822	13,880,833	1,827,989
評価損益等調整前当期経常増減額	951,178	3,632,623	△ 2,681,445
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	951,178	3,632,623	△ 2,681,445
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	951,178	3,632,623	△ 2,681,445
一般正味財産期首残高	37,410,268	33,777,645	3,632,623
一般正味財産期末残高	38,361,446	37,410,268	951,178
Ⅲ 正味財産期末残高	38,361,446	37,410,268	951,178

予算対比正味財産増減計算書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	2,000	439	1,561
特定資産受取利息	2,000	439	1,561
正会員受取入会金	76,000	60,000	16,000
学生会員受取入会金	80,000	67,000	13,000
正会員受取会費	9,210,000	8,411,000	799,000
当年度	9,210,000	8,191,000	1,019,000
過年度	0	220,000	△ 220,000
学生会員受取会費	848,000	468,000	380,000
当年度	848,000	444,000	404,000
過年度	0	24,000	△ 24,000
賛助会員受取会費	800,000	700,000	100,000
事業収益	7,046,600	6,650,151	396,449
春季大会事業収益	1,900,000	1,764,000	136,000
秋季大会事業収益	1,900,000	2,268,000	△ 368,000
論文誌掲載収益	2,600,000	2,142,450	457,550
別刷代収益	150,000	25,240	124,760
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	316,800	221,760	95,040
バックナンバー収益	19,800	24,153	△ 4,353
支部収益	0	44,548	△ 44,548
雑収益	150,100	303,410	△ 153,310
受取利息	100	54	46
雑収益	150,000	303,356	△ 153,356
経常収益計	18,212,700	16,660,000	1,552,700
(2) 経常費用			
事業費	14,620,169	11,748,305	2,871,864
臨時雇賃金	306,987	327,560	△ 20,573
会議費	1,666,356	571,279	1,095,077
旅費交通費	299,274	0	299,274
通信運搬費	614,260	593,238	21,022
消耗品費	253,801	278,584	△ 24,783
印刷製本費	6,390,900	5,228,263	1,162,637
諸謝金	1,103,525	428,359	675,166
支払負担金	0	66,000	△ 66,000
支払手数料	14,216	13,263	953
HP関係費	147,000	120,571	26,429
委託費	3,467,172	3,879,418	△ 412,246
他学協会連携関係維持費	211,000	198,000	13,000
雑費	145,678	43,770	101,908
管理費	4,094,500	3,960,517	133,983
旅費交通費	200,000	0	200,000
通信運搬費	240,000	157,904	82,096
消耗品費	33,000	4,884	28,116
印刷製本費	10,000	30,277	△ 20,277
租税公課	5,000	1,070	3,930
支払手数料	108,000	96,599	11,401
HP関係費	63,000	46,530	16,470
委託費	3,405,500	3,571,553	△ 166,053
雑費	30,000	51,700	△ 21,700
経常費用計	18,714,669	15,708,822	3,005,847
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 501,969	951,178	△ 1,453,147
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 501,969	951,178	△ 1,453,147
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 501,969	951,178	△ 1,453,147
一般正味財産期首残高	37,410,268	37,410,268	0
一般正味財産期末残高	36,908,299	38,361,446	△ 1,453,147
III 正味財産期末残高	36,908,299	38,361,446	△ 1,453,147

財産目録

令和 5年 3月31日現在

公益社団法人 日本経営工学会

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	預金	普通預金	運転資金として	10,559,124
		三菱UFJ信託銀行上野支店		1,196,593
		三井住友信託銀行芝営業部		132,342
		みずほ銀行早稲田支店		1,730,621
		みずほ銀行高田馬場支店/東北・北海道支部		55,649
		みずほ銀行高田馬場支店/関東支部		502,144
		みずほ銀行高田馬場支店/中部支部		186,222
		みずほ銀行高田馬場支店/北陸支部		30,249
		みずほ銀行高田馬場支店/関西支部		197,393
		みずほ銀行高田馬場支店/中国四国支部		160,000
		みずほ銀行高田馬場支店/九州支部		74,462
		みずほ銀行高田馬場支店/大会組織委員会		1,103,825
		みずほ銀行高田馬場支店/大会参加費振込用		3,889,000
		みずほ銀行高田馬場支店/大会参加費保管用		1,271,784
		みずほ銀行高田馬場支店/FMESシンポジウム		28,840
郵便振替		運転資金として	6,309,397	
ゆうちょ銀行/会費振込専用口座			3,455,542	
ゆうちょ銀行/大会参加費等振込専用口座			2,853,855	
流動資産合計			16,868,521	
(固定資産)	特定資産	公益目的事業運営資	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している。 公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している。 公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している。	22,000,000
				10,000,000
				10,000,000
		創立80周年記念事業準備金		2,000,000
				1,000,000
		みずほ銀行高田馬場支店/創立80周年記念事業準備金	公益目的事業の80周年記念事業に備えるため。 公益目的事業の80周年記念事業に備えるため。	250,000
		みずほ銀行早稲田支店/創立80周年記念事業準備金		
固定資産合計			23,250,000	
資産合計			40,118,521	
(流動負債)	未払金	株国際文献社 創立80周年記念事業準備金 翌事業年度以降の大会参加費及び論文誌掲載料 翌事業年度以降の会費等	公益目的事業及び管理目的である会員・会計等の委託費用である。 公益目的事業における記念事業準備金である。 公益目的事業における大会事前参加費である。 公益目的事業及び管理目的の業務に使用する翌事業年度の会費及び入会金である。 公益目的事業におけるアルバイト費用に応じた源泉徴収税額である。	1,584,128
				1,334,128
				250,000
				76,000
				96,000
流動負債合計			947	
負債合計			1,757,075	
正味財産			38,361,446	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	0	0	22,000,000
創立80周年記念事業準備金	1,000,000	250,000	0	1,250,000
選挙積立金	600,000	0	600,000	0
合 計	23,600,000	250,000	600,000	23,250,000

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は次の通りである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に対する額)
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	0	(22,000,000)	0
創立80周年記念事業準備金	1,250,000	0	(1,250,000)	0
選挙積立金	0	0	(0)	0
合 計	23,250,000	0	(23,250,000)	0

附属明細書

1. 特定資産の明細

特定資産について、財務諸表の注記 2. 特定資産の増減額及びその残高に記載をしているため、記載を省略する。

6. 2 監査報告

独立監査人の監査報告書

令和5年4月18日

公益社団法人日本経営工学会
理 事 会 御中

鶴高公認会計士事務所
公認会計士 鶴高利行

<財務諸表監査>

当公認会計士事務所は、公益社団法人日本経営工学会の令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン I-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当公認会計士事務所の責任は、当公認会計士事務所が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当公認会計士事務所は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当公認会計士事務所に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当公認会計士事務所の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当公認会計士事務所は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

当公認会計士事務所は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当公認会計士事務所は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

当公認会計士事務所は、公益社団法人日本経営工学会の令和5年3月31日現在の令和4年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

当公認会計士事務所の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

当公認会計士事務所は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本経営工学会と当公認会計士事務所の間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査報告書

2023 年 4 月 20 日

公益社団法人 日本経営工学会
会長 大野 高裕 殿

公益社団法人 日本経営工学会

監事 開沼 泰隆 (印)

監事 西岡 久充 (印)

私共は、2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財産目録、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

6. 3 2023 年度事業計画, 収支予算報告

2023 年度事業計画

1. 事業計画

[I] 研究発表会, 学術講演会の開催 (定款第 4 条第 1 号): 大会委員会

2023 年度は, 春季大会と秋季大会を開催する。

(1) 春季大会

日 時: 2023 年 6 月 3 日 (土) ~4 日 (日)

場 所: 青山学院大学

大会組織委員長: 中邨良樹

(2) 秋季大会

日 時: 2023 年 10~11 月(未定)

場 所: 中部支部所属機関

大会組織委員長:

[II] 会誌, その他の刊行 (定款第 4 条第 2 号)

(1) 日本経営工学会論文誌「Journal of Japan Industrial Management Association」: 日本経営工学会論文誌編集委員会

Vol.74, No.1~No.4, No.2E, No.4E を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
2023 年 04 月 15 日	74	1	1,300
2023 年 07 月 15 日	74	2, 2E	1,300
2023 年 10 月 15 日	74	3	1,300
2024 年 01 月 15 日	74	4, 4E	1,300

(2) 経営システム「Communications of JIMA」: 経営システム誌編集委員会

Vol.33, No.1, No.2 を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
2023 年 07 月 15 日	33	1	1,800
2024 年 01 月 15 日	33	2	1,800

[III] 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第 4 条第 3 号)

(1) 表彰委員会

学会賞, 論文賞, 論文奨励賞, 特別賞 (経営工学実践賞, 優秀学生賞, Best Presentation Award) を選考し, 理事会に推薦する。

[IV] 調査, 研究, 見学及び視察 (定款第 4 条第 4 号)

2022 年度の事業を踏襲し, 引き続き支部, 研究部門で活動を行う。

(1) 支部活動計画: 支部委員会

1) 東北・北海道支部

一北海道, 青森, 岩手, 秋田, 山形, 宮城, 福島

① 支部総会

日時: 2024 年 3 月 会場: 未定

② 研究発表会

日時: 2024 年 3 月 会場: 未定

③ 運営委員会

e メールにてその都度開催

④ その他

2) 関東支部

一埼玉, 栃木, 群馬, 千葉, 茨城, 神奈川, 東京, 山梨

① 関東支部運営委員会

年間 2 回開催予定

② 研究交流会

年間 2 回講演会を開催予定 (夏, 秋各 1 回)

③ 事業所見学会

年間 1 回秋頃開催予定

④ 支部合同セミナー

年間 1 回 3 月頃開催予定

⑤ 学生論文発表会

日時: 2024 年 3 月

3) 中部支部

一愛知, 岐阜, 三重, 静岡

① 支部総会 (1 回)

日時: 2024 年 2 月 会場: 名古屋工業大学

② 委員会 (1 回)

日時: 2024 年 2 月 会場: 名古屋工業大学

③ シンポジウム (1 回)

日時: 2023 年 7 月

会場: 未定 (日本設備管理学会東海支部の協賛)

④ 工場見学会 (1 回)

日時: 2023 年 11 月

会場: 未定 (日本設備管理学会東海支部の協賛)

⑤ 支部講演会 (1 回: 2 講演)

日時: 2024 年 2 月 会場: 名古屋工業大学

支部研究発表会 (1 回)

日時: 2024 年 2 月 会場: 名古屋工業大学

4) 北陸支部

一石川, 富山, 福井, 新潟, 長野

① 委員会 (2 回)

日時: 2023 年 5 月, 2024 年 2 月 会場: 未定

② セミナー (1 回)

日時: 2023 年 5 月 13 日(月)午後 会場: 未定

③ 学生論文発表会 (1 回)

日時: 2023 年 2 月 会場: 未定

5) 関西支部

一大阪, 京都, 兵庫, 和歌山, 奈良, 滋賀

① 支部総会

(ア) 日時: 2023 年 6 月

(イ) 議題: 2022 年度事業報告

2022 年度収支決算報告

新役員の選任

2023 年度事業計画案

2023 年度収支予算案

② 特別講演会

日時: 2023 年 6 月 会場: 未定

③ 委員会 (5 回)

- 日時：2023 年 6 月 会場：未定
 日時：2023 年 8 月 会場：未定
 日時：2023 年 10 月 会場：未定
 日時：2023 年 12 月 会場：未定
 日時：2024 年 2 月 会場：未定
- ④ セミナー（2 回）
 日時：2023 年 10 月 会場：未定
 日時：2024 年 2 月 会場：未定
- ⑤ 見学会（1 回）
 日時：2023 年 9 月 見学先：未定
- ⑥ 学生論文発表会（1 回）
 日時：2024 年 2 月
 会場：大阪工業大学（予定）

6) 中国四国支部

一鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、高知、徳島

- ① 支部総会
 (ア) 日時：2023 年 5 月
 (イ) 議題：2022 年度事業報告、決算報告
 2023 年度事業計画、収支予算等
 その他
- ② 支部役員会（3 回）
 日時：2022 年 5 月 会場：未定
 日時：2022 年 10 月 会場：未定
 日時：2023 年 2 月 会場：未定
- ③ 講演会（2 回）
 日時：2023 年 5 月 会場：未定
 日時：2024 年 2 月 会場：未定
- ④ 工場見学会（1 回）
 日時：2023 年 9 月 会場：未定
- ⑤ 学生論文発表会（1 回）
 日時：2024 年 2 月 会場：未定
- ⑥ 勉強会（1 回）
 日時：2023 年 11 月
 会場：未定

7) 九州支部

一福岡、佐賀、熊本、大分、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄

- ① 支部総会
 日時：2023 年 6 月 会場：福岡工業大学
 (ア) 総会
 2022 年度支部事業報告
 2022 年度支部決算報告
 2023 年度支部事業計画
 2023 年度支部予算案
 その他
 (イ) 意見交換会
- ② 合同研究会（年間 2 回）
 (ア) 第 1 回
 日時：2023 年 6 月 会場：福岡工業大学
 (イ) 第 2 回
 日時：2023 年 12 月 会場：未定
- ③ 経営工学合同定例セミナー
 日時：2023 年 9 月 会場：未定
- ④ 学生論文発表会

日時：2024 年 2 月 会場：福岡工業大学

- (ア) 発表会
 予定発表 15 件程度
 (イ) 意見交換会
- ⑤ 見学会
 日時：2023 年 8 月
 会場：未定（生産現場など）
- ⑥ 学生会講演会
 日時：2023 年度中 会場：未定 講師：未定
- ⑦ 幹事会（年間 3 回）
 2023 年 6 月、9 月、12 月
 （企画・運営委員会、論文集委員会、表彰委員会兼任）企画、論文集発行、表彰等の計画・実施
- ⑧ 研究委員会（年間 4 回）
 e メールを活用した電子会議を軸に実施し、開催日は委員長に一任
 研究会、見学会、セミナーの計画・実施
- ⑨ 学生助成委員会（年間 2 回）
 e メールを活用した電子会議を軸に実施し、開催日は委員長に一任
 論文発表会の会場・スケジュール、講演会の会場・講師・日程の調整・決定

(2) 研究部門活動計画：研究委員会

1) 生産・物流部門

生産・物流における研究活動を継続して行う。特に、産学連携交流会を開催するとともに、春季大会におけるオーガナイズドセッションを企画する。

2) 事業・市場部門

事業・市場分野における研究活動を継続して行う。青山ヒューマン・イノベーション・コンサルティング株式会社主催の「未来戦略デザイン推進会議」の研究プロジェクトの一部及び「科研 SDGs/CE 会議」と連携して活動を行うとともに、春季全国大会でオーガナイズドセッションを企画する。

3) サービス部門

サービス分野における研究活動を、引き続きゲーム理論やメカニズムデザインの観点に重点を置いて進めていく。また、春季全国大会でオーガナイズドセッションを企画する。

4) 経営情報部門

経営情報分野における研究活動を継続して行う。特に、データ解析コンペティションの中間発表会、成果報告会を開催するとともに、オンライン研究会を企画する。

5) 経営数理部門

経営数理分野における研究活動を継続して行う。特に、経営システム誌における特集の企画・検討を行うとともに、春季大会におけるオーガナイズドセッションを企画する。

6) 人間・組織部門

人間組織分野における会員交流促進するための運営体制の再構築を継続する。経営システム誌において人材育成に関する特集、またオンライン研究会を企画する。

(3) 研究プロジェクト：研究委員会

2023 年度に申請のあった下記 1 件の研究プロジェクトの運営支援を行う。

1) SCM 業務プロセスにおける意思決定と生産管理との統合システム構築に関する研究

サプライチェーンと生産管理における意思決定の理論と実務に関して、モデルの検討・構築・検証を行う。具体的には、協力企業の実務を調査して、実用的なモデルを構築する。モデル構築後、実務者向けの教育カリキュラムを検討し、実務者向けの講習会を実施して、フィードバックによる改善後、テキストを作成する。研究成果を経営工学会で発表する。

[V] 内外の関連機関との提携及び交流 (定款第4条第5号)

- (1) 経営工学に関連する国際会議のホームページ、メールマガジンによる会員向け案内の継続
- (2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応とそれらのホームページ、メールマガジンでの会員への案内・周知
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、日本工学会、経営関連学会協議会との連携とホームページへの情報掲載
- (4) APIEMS への協力・支援、年次大会のホームページへの情報掲載
- (5) IFPR (ICPR) 及び IFPR-APR への協力・支援、ホームページへの情報掲載促進
- (6) CHIE, KIIE との MOU に基づく連携活動
- (7) 経営システムへの国際会議報告等の寄稿者推薦
- (8) JABEE 及び FMES との連携活動
- (9) 日本技術士会及び日本 IE 協会との連携活動
- (10) その他、日本経営工学会の国際化方針に基づく活動支援及び国内学協会との連携支援等
- (11) 公益事業モデルの構築による外部組織との新たな公益事業の展開

[VI] その他前条の目的を達成するために必要な事業 (定款第4条第6号)

特になし

2. 会議に関する事項

[I] 定時総会

2023 年 6 月 3 日・4 日の春季大会期間中に開催予定

[II] 理事会

2023 年 5 月, 7 月, 10 月, 2024 年 1 月, 3 月 (年 5 回) 開催予定

[III] 各種委員会

(1) 庶務委員会

- 1) 規程類の検討, 総会・理事会の運営, ホームページの作成・更新・運用, メールマガジン発行
- 2) 事務の諸手続きの国際文献社への依頼
- 3) 事業計画書及び事業報告書の確認

(2) 研究委員会

全国大会において各研究部門が企画するオーガナイズドセッションおよび定期的開催されるオンライン研究セミナーの企画・運用をすることで会員間の交流を促進し、研究活動の活性化を行う。

- 1) 全国大会におけるオーガナイズドセッションの企画・運営
- 2) オンライン研究セミナーの企画・運営
昨年度に引き続き、他の委員会と連携しながらオンライン研究会・セミナー (年 4 回予定) の企画・運営支援を行う。また、各研究部門が独自で開催する研究会の活動支援を行う。
- 3) 会員への情報提供
各研究部門・研究プロジェクトの活動状況を会員へメールマガやホームページを通じて広報する。

(3) 日本経営工学会論文誌編集委員会

- 1) 日本経営工学会論文誌 和文誌 4 号, 英文誌 2 号の発行
- 2) 特集号, 記念号発行の計画・調整
- 3) 年 6 回程度の委員会を開催し, 論文誌発行を進めるとともに, 規定類の見直し等について検討
- 4) 理事会と連携し, 安定的・継続的で魅力的な論文誌の維持・運営のための方策などを検討

(4) 企画・行事委員会

- 1) オンライン、対面、ハイブリッドいずれかの形式のセミナーイベントの開催 (年 5 回程度)。ただし、オンラインでのセミナーイベント運営業務については適宜研究部門と連携して実施する。
- 2) 各種コンペティションへの審査員派遣と表彰

(5) 人材育成委員会

- 1) 技術士 (経営工学) 取得への支援活動: 経営工学関係 3 団体 (日本経営工学会, 日本技術士会, 日本 IE 協会) で連携しながら, 技術士 (経営工学) をめざしている学生, 実務を担当しながら技術士 (経営工学) を目指している企業人に対して, 国家資格としての技術士の制度や受験について支援活動をする。これにより, 更に経営工学に興味を持ってもらい, 将来的に日本経営工学会への入会につなげていく。
- 2) 実践教育プログラムの活動: 日本経営工学会の人材育成に関する方針に関連した諸活動。

(6) 会員委員会

- 1) 会員の入退会の管理, 報告
- 2) 会員名簿の情報セキュリティ運用対策の実施

- 3) 会員増強のためのデータ分析
- 4) 会員増強策の検討, 提案

(7) 財務委員会

- 1) 毎月の伝票検査, 支払い及び半期毎の予算執行の管理
- 2) 決算案の作成と事業報告書の提出期限の周知, 監査手続き
- 3) 予算案のとりまとめと事業計画書の提出期限の周知
- 4) 計数的統制と効率の運用
- 5) 経費承認システムの運用方法の検討

(8) 大会委員会

- 1) 春季・秋季大会での委員会開催
- 2) 春季・秋季大会プログラム検討の委員会開催
- 3) 事務局（ヘルプデスク）との大会関連の調整
- 4) その他大会に関する会合（Zoom, e メール等で開催）

(9) 表彰委員会

学会賞, 論文賞, 論文奨励賞, 特別賞（経営工学実践賞, 優秀学生賞, Best Presentation Award）の各候補の推薦方法を検討し, 各賞受賞候補者（案）を決定し, 理事会に諮る。

(10) 国際・渉外委員会

- 1) 経営工学に関連する国際会議のホームページ, メールマガジンによる会員向け案内の継続
- 2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応と国内外での協賛・共催学会のホームページでの案内・周知
- 3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）, 日本工学会, 経営関連協議会との連携とホームページへの情報掲載
- 4) APIEMS への協力・支援, 年次大会のホームページへの情報掲載
- 5) IFPR (ICPR) 及び IFPR-APR への協力・支援, ホームページへの情報掲載促進
- 6) CHIE, KIIE との MOU に基づく連携活動
- 7) 「経営システム」誌への国際会議報告等の寄稿者推薦
- 8) JABEE 及び FMES との連携活動
- 9) 日本技術士会及び日本 IE 協会との連携活動
- 10) 大会委員会ならびに研究委員会と連携した FMES シンポジウムの開催
- 11) その他, 日本経営工学会の国際化方針に基づく活動支援及び国内学協会との連携支援等

(11) 経営システム誌編集委員会

- 1) 年間 2 冊の発行を継続しつつ電子化を推進
- 2) 学会活動を広く発信する観点から, 経営システムの在り方, 各コンテンツの内容, 発信媒体を再検討
- 3) 上記を議論するため, 適宜, 編集委員会を開催

(12) 支部委員会

- 1) 委員会の開催
- 2) 各支部の事業計画と支部に割り当てる資金・企画行事の検討
- 3) 支部活動や支部間連携活動の活性化支援
- 4) 支部の運営方法や大会開催支援に関する検討

(13) 産官学連携推進委員会

- 1) 産・官・学連携を一層強化する方策を関連各主体との議論を踏まえ検討していく。
- 2) 産業は、賛助会員はもちろん現在賛助会員にはなっていない企業をも含めた検討を行う。官も文部科学省はもちろん、経済産業省との検討他、I E 協会や技術士会などを含めた連携を視野に入れた検討を行う。

収支予算書(案)

2023年 4月1日から2024年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	1,000	2,000	△ 1,000
正会員受取入会金	48,000	76,000	△ 28,000
学生会員受取入会金	80,000	80,000	0
正会員受取会費	8,560,000	9,210,000	△ 650,000
学生会員受取会費	840,000	848,000	△ 8,000
賛助会員受取会費	800,000	800,000	0
事業収益	7,023,830	7,046,600	△ 22,770
産学連携研究交流会事業収益	0	0	0
春季大会事業収益	1,900,000	1,900,000	0
秋季大会事業収益	1,900,000	1,900,000	0
論文誌掲載収益	2,600,000	2,600,000	0
別刷代収益	150,000	150,000	0
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	312,840	316,800	△ 3,960
バックナンバー収益	990	19,800	△ 18,810
支部収益	0	0	0
研究部門収益	0	0	0
記念事業収益	0	0	0
その他事業収益	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
雑収益	150,100	150,100	0
受取利息	100	100	0
雑収益	150,000	150,000	0
経常収益計	17,502,930	18,212,700	△ 709,770
(2) 経常費用			
事業費	15,210,734	14,620,169	590,565
臨時雇賃金	289,977	306,987	△ 17,010
会議費	1,780,050	1,666,356	113,694
旅費交通費	105,274	299,274	△ 194,000
通信運搬費	609,260	614,260	△ 5,000
消耗品費	288,074	253,801	34,273
印刷製本費	6,415,900	6,390,900	25,000
諸謝金	1,014,927	1,103,525	△ 88,598
支払手数料	14,216	14,216	0
HP関係費	105,000	147,000	△ 42,000
委託費	4,239,200	3,467,172	772,028
他学協会連携関係維持費	211,000	211,000	0
雑費	137,856	145,678	△ 7,822
管理費	3,824,000	4,094,500	△ 270,500
臨時雇賃金	0	0	0
会議費	0	0	0
旅費交通費	200,000	200,000	0
通信運搬費	184,000	240,000	△ 56,000
消耗品費	33,000	33,000	0
印刷製本費	20,000	10,000	10,000
租税公課	5,000	5,000	0
支払手数料	108,000	108,000	0
HP関係費	45,000	63,000	△ 18,000
委託費	3,199,000	3,405,500	△ 206,500
雑費	30,000	30,000	0
経常費用計	19,034,734	18,714,669	320,065
当期経常増減額	△ 1,531,804	△ 501,969	△ 1,029,835
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,531,804	△ 501,969	△ 1,029,835
一般正味財産期首残高	36,908,299	37,410,268	△ 501,969
一般正味財産期末残高	35,376,495	36,908,299	△ 1,531,804
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	35,376,495	36,908,299	△ 1,531,804

収支予算書内訳表(案)

2023年 4月1日から2024年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業		法人会計	合 計
	経営工学に関する 学術振興事業	小計		
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	1,000	1,000	0	1,000
正会員受取入会金	24,000	24,000	24,000	48,000
学生会員受取入会金	40,000	40,000	40,000	80,000
正会員受取会費	4,280,000	4,280,000	4,280,000	8,560,000
学生会員受取会費	420,000	420,000	420,000	840,000
賛助会員受取会費	400,000	400,000	400,000	800,000
事業収益	7,023,830	7,023,830	0	7,023,830
産学連携研究交流会事業収益	0	0	0	0
春季大会事業収益	1,900,000	1,900,000	0	1,900,000
秋季大会事業収益	1,900,000	1,900,000	0	1,900,000
論文誌掲載収益	2,600,000	2,600,000	0	2,600,000
別刷代収益	150,000	150,000	0	150,000
広告料収益	160,000	160,000	0	160,000
定期購読収益	312,840	312,840	0	312,840
バックナンバー収益	990	990	0	990
支部収益	0	0	0	0
研究部門収益	0	0	0	0
記念事業収益	0	0	0	0
その他事業収益	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0
雑収益	0	0	150,100	150,100
受取利息	0	0	100	100
雑収益	0	0	150,000	150,000
経常収益計	12,188,830	12,188,830	5,314,100	17,502,930
(2) 経常費用				
事業費	15,210,734	15,210,734	0	15,210,734
臨時雇賃金	289,977	289,977	0	289,977
会議費	1,780,050	1,780,050	0	1,780,050
旅費交通費	105,274	105,274	0	105,274
通信運搬費	609,260	609,260	0	609,260
消耗品費	288,074	288,074	0	288,074
印刷製本費	6,415,900	6,415,900	0	6,415,900
諸謝金	1,014,927	1,014,927	0	1,014,927
支払手数料	14,216	14,216	0	14,216
HP関係費	105,000	105,000	0	105,000
委託費	4,239,200	4,239,200	0	4,239,200
他学協会連携関係維持費	211,000	211,000	0	211,000
雑費	137,856	137,856	0	137,856
管理費	0	0	3,824,000	3,824,000
臨時雇賃金	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	200,000	200,000
通信運搬費	0	0	184,000	184,000
消耗品費	0	0	33,000	33,000
印刷製本費	0	0	20,000	20,000
租税公課	0	0	5,000	5,000
支払手数料	0	0	108,000	108,000
HP関係費	0	0	45,000	45,000
委託費	0	0	3,199,000	3,199,000
雑費	0	0	30,000	30,000
経常費用計	15,210,734	15,210,734	3,824,000	19,034,734
当期経常増減額	△ 3,021,904	△ 3,021,904	1,490,100	△ 1,531,804
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,021,904	△ 3,021,904	1,490,100	△ 1,531,804
一般正味財産期首残高				36,908,299
一般正味財産期末残高				35,376,495
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額				0
当期指定正味財産増減額				0
指定正味財産期首残高				0
指定正味財産期末残高				0
III 正味財産期末残高				35,376,495

6.4. 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

◎会員権利停止・会員資格喪失予告者一覧（1年間：2022年度 正会員：25名 学生会員：27名）

下記の会員権利停止・会員資格喪失予告者については定款第10条および会員規則第4条により、

(1) 2023年9月末日時点で会費未納の場合は、会員の権利を2024年1月末日まで停止する。

(2) 2024年1月末日時点で会費未納の場合は、会員資格喪失とする。

正会員 25名

小松崎 一成	竹下 太一郎	船田 眞里子	郭 偉宏	河野 善彌	松本 義之
福岡 克美	田中 信悟	菅 哲哉	小村 泰範	馮 玲	露木 美幸
関田 力	力 利則	岩崎 裕治	遠藤 正之	北 英紀	白瀬 朋仙
尾崎 達也	方 蘇春	矢後 諒智	藤川 裕晃	田村 泰一	中里 純
桧川 征也					

学生会員 27名

難波 禎人	円城寺 怜	岡本 雄基	大野 智暉	松苗 亮汰	福井 祐介
井上 誠之	森 義教	松本 拓見	大原 滢奈	浅岡 琢視	倉持 華奈子
宋 林鑫	佐藤 珠希	譚 西子	姜 嘉慧	横田 健一郎	平井 佑
伊藤 圭祐	四分一 康平	長尾 剛樹	半田 滉太郎	金澤 悠璃	齊藤 芙佑
北里 礼	永井 将基	飯塚 玲夫			

7. 審議事項

第一号議案 2022 年度事業報告及び収支決算報告の件

報告事項 6. 1 2022 年度事業報告，学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告（pp. 1～pp. 27）をご参照ください。

第二号議案 名誉会員推戴の件

会員細則

JS2-05-1

公益社団法人 日本経営工学会

第2章 名誉会員推薦

- 第1条 名誉会員推薦については定款第5条に定めるものの他は、本細則にもとづいて行う。
- 第2条 名誉会員候補者は、3月末時点において70歳以上で、本細則第3条のいずれかに該当する人とする。
- 第3条 前会長または元会長
- 2 副会長，理事，監事，支部長，委員長の各1期を以下のように定め、合計10点以上の人。
ただし、期末満の場合には、繰り上げとする。
 - ・副会長 5点 ・理事 4点
 - ・監事 4点（ただし、公益社団法人認定以前（第29期以前）は2点）
 - ・支部長 2点 ・委員長 1点
 - 3 その他、上記に準じると理事会が認めた人。
- 第4条 本細則第3条にもとづき、会員委員会は候補者名簿を作成し、理事会に報告する。理事会はこれを検討の後、候補者案をまとめて、総会に提案する。総会は、この候補者を定款第5条に基づき審査し、推薦を議決する。
- 2 名誉会員候補者に対しては、理事会承認後、会長名の文書で名誉会員候補者に推薦された旨を伝え、総会授賞式への出席を求め、他の名誉会員と同様に大会への無料招待状を送り、名誉会員推戴が議決された総会開催年度以降の年会費を無料とする。

上記会員細則に基づき、会員委員会、理事会で審議の結果、本会正会員の

圓川 隆夫氏

を名誉会員として推戴いたします。

第三号議案 新役員選任の件

第 37 期役員

役職	氏名	所属
会長	開沼 泰隆	前 東京都立大学
理事	翁 嘉華	神奈川大学
	倉田 久	横浜国立大学
	谷水 義隆	早稲田大学
	中川 慶一郎	株式会社 NTT データニューソン
	蓮池 隆	早稲田大学
	降旗 徹馬	高千穂大学
	堀川 三好	岩手県立大学
	宗澤 良臣	広島工業大学
	船木 謙一※	日立製作所
	葛山 康典※	早稲田大学
	赤木 宏匡※	鹿島建設
	金子 勝一※	山梨学院大学
監事	滝 聖子	千葉工業大学
	皆川 健多郎	大阪工業大学

※役員及び代議員選挙規則第 21 条による会長指名の役員

第 37 期代議員 (29 名)

	氏名	所属	所属支部	種別
1	笥 宗徳	福島大学	東北・北海道	学
2	石垣 綾	東京理科大学	関東	学
3	伊呂原 隆	上智大学		
4	大久保 寛基	東京都市大学		
5	大野 高裕	早稲田大学		
6	片桐 英樹	神奈川大学		
7	齊藤 史哲	千葉工業大学		
8	志田 敬介	慶應義塾大学		
9	高野倉 雅人	神奈川大学		
10	中嶋 良介	電気通信大学		
11	松野 思迪	早稲田大学		
12	松林 伸生	慶應義塾大学		
13	水山 元	青山学院大学		
14	山下 遙	上智大学		
15	山下 真	東京工業大学		
16	山田 哲男	電気通信大学		
17	内田 耕平	AGC株式会社	産	産
18	横山 英明	預金保険機構		
19	中野 真	金沢工業大学	北陸	学
20	伊藤 久司	東海学園大学	中部	学
21	伊藤 雅	愛知工業大学		
22	川村 大伸	名古屋工業大学		
23	竹本 康彦	近畿大学	関西	学
24	辺 成祐	近畿大学		
25	楠川 恵津子	大阪公立大学		
26	田村 豊	田村 IE 技術事務所		
27	徐 祝旗	愛媛大学	中国四国	学
28	森川 克己	広島大学		
29	小林 稔	福岡工業大学	九州	学

